

JP00/02622

09/720079  
PCT/JP00/02622

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

21.04.00

EU

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年 4月21日

REC'D 09 JUN 2000

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第113471号

WIPO

PCT

出 願 人

Applicant (s):

ソニー株式会社

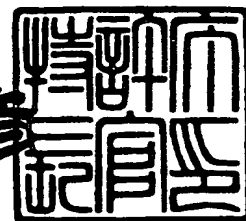
PRIORITY  
DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

Best Available Copy

2000年 5月26日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

近藤 隆彦



出証番号 出証特2000-3037904

【書類名】 特許願

【整理番号】 9900202402

【提出日】 平成11年 4月21日

【あて先】 特許庁長官 伊佐山 建志 殿

【国際特許分類】 G07G 1/12

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区南青山1丁目1番1号株式会社ソニーファイ  
ナンスインターナショナル内

【氏名】 川合 成幸

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区南青山1丁目1番1号株式会社ソニーファイ  
ナンスインターナショナル内

【氏名】 伊藤 浩二

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100082740

【弁理士】

【氏名又は名称】 田辺 恵基

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 048253

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9709125

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子マネーシステム及び電子マネー端末装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

情報カードに入金された金額データからユーザの消費金額分の金額データを引き出す電子マネー端末手段を有する電子マネーシステムにおいて、

上記消費金額分の金額データを上記情報カードから引き出すことに代えて上記消費金額分の金額データを分割払い利用履歴データとして蓄積する分割払い利用履歴データ蓄積手段と、

上記分割払い利用履歴データ蓄積手段に蓄積された分割払い残高の任意の一部又は全部を分割支払い金として受け付ける支払い受付手段と、

上記分割払い残高から上記支払い受付手段によって受け付けられた分割支払い金額を減算して新たな残高を決定する分割払い残高管理手段と、

を具えることを特徴とする電子マネーシステム。

【請求項 2】

上記分割払い利用履歴データ蓄積手段は、

上記ユーザの消費に応じて上記分割払い利用履歴データを上記電子マネー端末手段に一旦蓄積する第 1 の蓄積手段と、

上記第 1 の蓄積手段によって上記電子マネー端末手段に蓄積された上記分割払い利用履歴データを上記電子マネー端末手段から集めて蓄積する第 2 の蓄積手段と

を具えることを特徴とする請求項 1 に記載の電子マネーシステム。

【請求項 3】

上記支払い受付手段は、

上記分割支払い金の最低額を上記分割払い残高に応じて設定する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の電子マネーシステム。

【請求項 4】

情報カードに入金された金額データからユーザの消費金額分の金額データを引き出す電子マネー端末装置において、

上記消費金額分の金額データを上記情報カードから引き出すことに代えて上記消費金額分の金額データを分割払い利用履歴データとして蓄積する分割払い利用履歴データ蓄積手段を具え、

分割払い管理手段からの要求に応じて上記分割払い利用履歴データを上記管理手段に送信するようにしたことを特徴とする電子マネー端末装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は電子マネーシステム及び電子マネー端末装置に関し、情報カードに金額データを記憶させて使用する電子マネーシステム及び電子マネー端末装置に適用して好適なものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、銀行やクレジット会社等で発行されるキャッシュカードやクレジットカードをユーザが使用する場合、これらのカードを受け付けるカード端末装置を設置した店舗において当該店舗の店員がカード端末装置にカードの磁気ストライプに記憶されたカード番号を読み取らせると共に、このときの利用金額を入力する。

【0003】

このとき、カード端末装置は、銀行やカード会社の管理コンピュータに通信回線を接続し、カード番号や利用金額等の情報を送信する。銀行やカード会社の管理コンピュータは、各ユーザが所有するキャッシュカードやクレジットカードの期限切れ状態、利用限度額に達しているか否かの状態、紛失届けの有無等を管理しており、カード端末装置から通信回線を介して送信されたカード番号や利用金額情報に基づいて、カードの使用可否を判断する。そして、当該カードが使用可能である判断結果が得られると、銀行やカード会社の管理コンピュータはそのカードについての使用許可情報を送信元であるカード端末装置に返送すると共に、利用金額についてカードの指定口座からの引き落とし手続等を行う。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、かかるキャッシュカードやクレジットカードを使用するシステムにおいては、ユーザがこれを使用する毎にカード端末装置から銀行やカード会社の管理コンピュータに対してカード使用の承認要求を送信する必要があり、通信回線の接続処理が必要になる分、カードの使用時の処理が煩雑になる問題があった。

【0005】

また、クレジットカードを用いて分割払いを利用する場合、ユーザはクレジット会社との間で予め口座引き落としの手続を行い、クレジット会社は当該手続によって決められた一定額を毎月の約定日に口座から自動的に引き落とす処理を行うため、ユーザは分割支払い額を予め決める必要があり、支払う毎に任意の支払い額を決めることが困難であった。

【0006】

本発明は以上の点を考慮してなされたもので、分割払いを利用する際に分割払い金額をユーザが支払う毎に任意に決定し得る電子マネーシステム及び電子マネー端末装置を提案しようとするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

かかる課題を解決するため本発明においては、消費金額分の金額データを分割払い利用履歴データとして蓄積し、蓄積された分割払い残高の一部又は全部を分割支払い金として受け付け、分割払い残高から受け付けられた分割支払い金額を減算して新たな残高を決定することにより、ユーザは分割支払い金として分割支払い残高のうち任意の金額を分割支払い金として支払うことができる。

【0008】

【発明の実施の形態】

以下図面について、本発明の一実施の形態を詳述する。

【0009】

(1) 電子マネーシステムの構成

図1において1は全体として電子マネーシステムを示し、ICカード50の発行及び電子マネーの管理並びに決済を行う電子マネー管理部10と、ICカード50に電子マネー（金額データ）を入金する入金端末装置21<sub>x</sub>と、当該電子マネーが入金されたICカード50によるユーザの支払いを受け付ける各店舗3の電子マネー端末装置25<sub>x</sub>と、ユーザがICカード50を用いて商品を購入し得るようになされた自販機19<sub>x</sub>及び当該自販機19<sub>x</sub>からICカード50の利用履歴（利用金額、日時等）を受信してこれを蓄積する自販機サーバ18とを有する。入金端末装置21<sub>x</sub>、電子マネー端末装置25<sub>x</sub>及び自販機19<sub>x</sub>は複数設置される。

## 【0010】

図2に示すように、電子マネー管理部10においては、第1のLAN(Local Area Network)を構成するデータバスBUS1に各種サーバ（セキュリティサーバ11、電子マネーサーバ13、発行データサーバ14、発行装置15、総合サーバ16、アクセスサーバ17及び自販機サーバ18）が接続され、また第2のLANを構成するデータバスBUS2には各種端末装置（入金端末装置21<sub>1</sub>～21<sub>n</sub>、電子マネー端末装置25<sub>1</sub>～25<sub>n</sub>及び自販機19<sub>1</sub>～19<sub>n</sub>）が接続されている。そして、第1のLAN及び第2のLANはアクセスサーバ17を介して接続される。

## 【0011】

電子マネー管理部10において、セキュリティサーバ11は、図3に示すように、記憶部11Bに格納された動作プログラムに従って動作するCPU11Aを有し、当該CPU11Aは、総合サーバ16と他の端末装置やサーバとの間でのデータの授受において、当該授受されるデータを通信部11Hを介して入力し、所定の暗号化キーを用いた暗号化及び相互認証部11Cによる通信先の認証処理等を行う。

## 【0012】

総合サーバ16は、図4に示すように、記憶部16Bに格納された動作プログラムに従って動作するCPU16Aを有し、各入金端末装置21<sub>1</sub>～21<sub>n</sub>を介して入金された金額データ等の取引履歴情報や、各電子マネー端末装置25<sub>1</sub>～

25<sub>n</sub> に蓄積された IC カード 50 の利用履歴 (IC カード番号、利用金額、日時等) を第 2 の LAN、アクセスサーバ 17、第 1 の LAN 及びセキュリティサーバ 11 を介して通信部 16H から取り込み、データバス BUS 16 を介してデータベース 16C に格納する。

【0013】

また総合サーバ 16 は、銀行・クレジット会社管理コンピュータ 100 から供給されるユーザ指定口座からの引き落とし金額データを電子マネーサーバ 13 を介してデータベース 16C に格納するようになされている。

【0014】

電子マネーサーバ 13 は、所定の通信回線で外部の銀行・クレジット会社コンピュータ 100 の間でデータの授受を行うと共に、総合サーバ 16 のデータベース 16C に格納された電子マネーに関する種々の情報に基づいて例えば 1 カ月に 1 回の割り合いで決済を行う。

【0015】

発行サーバ 14 は、発行装置 15 において発行された IC カード 50 の IC カード番号及び当該 IC カード 50 を所有するユーザのクレジットカード番号の組み合わせをデータベースに登録しておく。

【0016】

また、自販機サーバ 18 は、各自販機 19<sub>1</sub> ~ 19<sub>n</sub> から送信された IC カード 50 の利用履歴 (利用額、日時等) を蓄積し、例えば 1 日に 1 回の割合でこれを第 2 の LAN、アクセスサーバ 17、第 1 の LAN 及びセキュリティサーバ 11 を介して総合サーバ 16 のデータベース 16C に格納する。

【0017】

この電子マネーシステム 1 において、電子マネー管理部 10 の発行装置 15 は非接触で情報を書き込み又は読み取るようになされた IC (Integrated Circuit) カード 50 を発行し、各テナント企業の発行窓口 2 (図 1) においてこれをユーザに配付する。この IC カード 50 はメモリを有し、各 IC カードごとに固有の IC カード番号が当該メモリに予め記憶される。



## 【 0 0 1 8 】

すなわち IC カード 5 0 は、図 5 及び図 6 に示すように、電源供給用のバッテリーを有しないバッテリーレス型の IC カードであり、例えば平板状の基板 5 5 を基台として、データ書込み読出し装置 6 0 から放射された電磁波を受信して電気信号に変換するコイル状のループアンテナ 5 2 と、送信データの変調又は受信データの復調を行う変復調回路 5 3 と、受信データの解析及び送信データの生成を行う制御部 5 4 とを有する。

## 【 0 0 1 9 】

この IC カード 5 0 においては、データ書込み読出し装置 6 0 から放射された電磁波をループアンテナ 5 2 で受信し、これを変調波として変復調回路 5 3 に送出する。変復調回路 5 3 は変調波を復調し、これをデータ書込み読出し装置 6 0 から送信された送信データ D 1 として信号処理回路 5 4 に供給する。

## 【 0 0 2 0 】

信号処理回路 5 4 はハードロジック回路又は CPU (Central Processing Unit) によって構成される制御部 5 9 と、ROM (Read Only Memory) 5 7 及び RAM (Random Access Memory) 5 8 からなるメモリ部を内部に有し、制御部 5 9 は ROM 5 7 に書き込まれているプログラムに従って送信データ D 1 を RAM 5 8 上で解析し、解析された送信データ D 1 に基づいて RAM 5 8 に格納されている電子マネーに関する種々のデータ D 2 を読み出して、これを変復調回路 5 3 に送出する。変復調回路 5 3 は、データ D 2 を変調し、ループアンテナ 5 2 (図 5) から電磁波としてデータ書込み読出し装置 6 0 に放射する。

## 【 0 0 2 1 】

変復調回路 5 3 は、電磁波のエネルギーを安定した直流電源に変換する電源回路を内部に有しており、データ書込み読出し装置 6 0 から放射されてループアンテナ 5 2 で受信した電磁波を基に電源回路によって直流電源 DC 1 を生成して制御部 5 9 に供給すると共に、受信した電磁波に基づいて生成したクロック信号 CLK 1 を制御部 5 4 に供給し、また、各種制御用のコントロール信号 CTL 1 を制御部 5 4 から受け取るようになされている。

## 【0022】

データ書き込み読出し装置60は、データバスBUSを介して供給された種々の送信データを変復調回路61に入力し、変復調回路61はこれを電磁波として効率良く放射し得る所定の周波数帯域の搬送波を用いて送信データに基づく変調処理を施し、ループアンテナ62から電磁波として放射する。

## 【0023】

また、データ書き込み読出し装置60は、ICカード50から放射された電磁波をループアンテナ62によって受信し、これを変調波として変復調回路61に供給する。変復調回路61は、変調波を復調し、これをICカード50から送信されたデータとしてデータバスBUSを介して信号処理部（図示せず）に供給する。

## 【0024】

このICカード50のRAM58は、電子マネーに関する種々の情報を記憶するようになされており、これらの情報はディレクトリによって管理された複数のファイルに格納される。すなわちICカード50のRAM58には、図7（A）に示すように、ディレクトリの上位情報であるICカード番号D11、ファイル及びディレクトリの定義情報D12及びファイルへのアクセスキーD13等からなる管理情報D10と、図7（B）に示すようにディレクトリ構造の下位情報である電子マネー情報D20とが記憶される。電子マネー情報D20としては、電子マネーの残高を表す残高データD22と、電子マネーの利用履歴を表す電子マネーログデータD23と、ユーザがICカード50を用いて買い物等を行う際に残高データD22が利用金額に対して不足している場合に当該不足分をクレジットカード利用分として支払い可能であるか否かをICカード50の配付時に予め登録するクレジットカード利用フラグ（後述する）D24と、その他ユーザに関する情報（社員番号や入出門データ）D25と、後述する使用禁止フラグ(Negative Flag) D26と、ユーザがICカード50を用いて買い物をする際に分割払いを選択し得るようにICカード50の配布時に予め登録する分割払い利用フラグD27とが各ファイルに書き込まれる。

## 【0025】

かかる ICカード 50 の配付を受けたユーザは、図 1 に示す入金端末装置 21<sub>x</sub> によって ICカード 50 に所望金額の現金に代わる金額データ（電子マネー）を現金又はキャッシュカード若しくはクレジットカードを用いて入力する。この入金端末装置 21<sub>x</sub> は図 8 に示すように、ICカード 50 に対して非接触でデータの授受を行うカード通信部 21D（図 5 のループアンテナ 62 及び変復調回路 61 と同様構成）と、キャッシュカードやクレジットカード 40 の磁気ストライプからデータを読み取るクレジットカード通信部 21E と、現金を投入する現金投入部 21J と、表示部 21F 及び操作部 21G が一体化されたタッチパネル 21T と、利用の控えであるレシートを掃出するレシート掃出部 21I とをその外装部に有する。

## 【0026】

この入金端末装置 21<sub>x</sub> を用いて ICカード 50 に金額データ（電子マネー）を入力する入金方法として、ユーザが入金端末装置の現金投入部 21I に現金を投入することにより当該入金端末装置 21<sub>x</sub> が投入された現金分の金額データを ICカード 50 の RAM 58 に書き込む現金による入金方法、又はユーザが銀行発行のキャッシュカードやカード会社発行のクレジットカードをクレジットカード通信部 21E に挿入し操作部 21G を介して所望の金額を入力指定することにより入金端末装置 21<sub>x</sub> が当該指定された金額データをキャッシュカード又はクレジットカードの指定口座から ICカード 50 に移す方法がある。因みに、キャッシュカードとは銀行口座の預金を利用するためのカードを意味し、クレジットカードとは当該クレジットカードを発行したクレジット会社がユーザに対して所定金額を融資するためのカードを意味する。

## 【0027】

ここで、図 9 に示すように、入金端末装置 21<sub>x</sub> において CPU 21A は記憶部 21B に格納されているプログラムに従い、図 10 に示す入金／支払い処理手順を実行するようになされている。CPU 21A はユーザが ICカード 50 をカード通信部 21D に接近させると共に操作部 21G を介して入金／支払い開始操作を行うと、図 10 に示すステップ SP10 から当該入金／支払い処理手順に入

り、続くステップSP11において、このときユーザが希望する処理として、ICカード50に金額データ（電子マネー）を入力する入金処理であるか、又は後述する分割払いの支払いを行う支払い処理であるかを判断する。この場合、入金端末装置21<sub>x</sub>のCPU21Aは、タッチパネル21Tに対して図11（A）に示すように入金又は支払いのいずれかをユーザが選択し得る選択画面を表示し、ユーザは入金選択キー21T<sub>1</sub>又は支払い選択キー21T<sub>2</sub>のいずれかを押圧することにより選択する。因みに、このときタッチパネル21Tには、分割払いの支払い日である約定日を表示することにより、ユーザに対して支払いを促すようになされている。

## 【0028】

そしてユーザの選択操作により、入金端末装置21<sub>x</sub>のCPU21Aは、ステップSP11において入金処理又は支払い処理のいずれかの判断結果を得る。ユーザの選択結果が支払い処理である場合、CPU21AはステップSP80に移って後述する支払い受付処理を実行する。

## 【0029】

これに対して、ユーザの選択結果が入金処理である場合、CPU21AはステップSP12に移ってICカード50からカード番号等の情報を読み出すと共にタッチパネル21Tを介してユーザが入金方法を入力するのを待ち受ける。

## 【0030】

この場合、CPU21Aはタッチパネル21Tに対して、図11（B）に示すように、入金方法として現金又はキャッシュカード若しくはクレジットカードのいずれかを選択し得る現金選択キー21T<sub>11</sub>又は、キャッシュカード・クレジットカード選択キー21T<sub>12</sub>を表示し、ユーザはこれらの選択キーのいずれかを押圧することにより選択する。

## 【0031】

ここで、ユーザが現金による入金を指定するとCPU21Aは現金投入部21Jの投入蓋を開けてユーザが現金を投入するのを待ち受ける。そしてユーザが現金を現金投入部21Jに投入すると、CPU21Aは当該投入された現金の金額を数え、図11（C）に示すように、タッチパネル21Tに対して、投入された

現金の計数結果 21T<sub>21</sub>を表示する。ユーザは当該計数結果 21T<sub>21</sub>が正しいときタッチパネル 21T に表示される確認キー 21T<sub>22</sub>を押圧操作することにより CPU 21A に対して入金金額の計数結果が正しいことを入力し、これに対して計数結果に誤りがあるとき、ユーザはタッチパネル 21T に表示される戻りキー 21T<sub>23</sub>を押圧操作することにより、計数結果に誤りがあることを入力する。

## 【0032】

ユーザによって確認キー 21T<sub>22</sub>が操作されると、CPU 21A は続くステップ SP 13 に移るのに対して、ユーザによって戻りキー 21T<sub>23</sub>が操作されると CPU 21A は現金投入口 21J に現金を戻して入金処理を停止する。

## 【0033】

またステップ SP 12 においてユーザがキャッシュカード又はクレジットカード 40 を用いた入金方法を指定すると、CPU 21A は図 11 (D) に示すように、タッチパネル 21T に対してカード挿入指示 21T<sub>31</sub>を表示することにより、ユーザに対してキャッシュカード又はクレジットカード 40 のクレジットカード通信部 21E への挿入を促した後、図 11 (E) に示すように、タッチパネル 21T に対して、数字キー 21T<sub>41</sub>を表示し入金金額の入力を促す。これによりユーザは所望の入金金額を入力する。

## 【0034】

かくして CPU 21A は、ユーザが指定した入金方法が現金による入金である場合、続くステップ SP 13 からステップ SP 18 に移って、このときユーザが現金投入部 21J に投入した現金の金額をカード通信部 21D を介して IC カード 50 に送信すると共に、当該現金による入力分の金額データを通信部 21H を介して電子マネー管理部 10 の総合サーバ 16 に送信し格納する。これにより、IC カード 50 の制御部 50 は入金端末装置 21<sub>x</sub> から送信された入金金額データを RAM 58 の電子マネー残高に加えることにより、当該電子マネーの残高を表す残高データ D 22 (図 7 (B)) を更新する。

## 【0035】

これに対して、ユーザが指定した入金方法がキャッシュカード又はクレジットカード 40 を用いた入金方法である場合、CPU 21A はステップ SP 13 から

ステップ S P 1 4 に移り、クレジットカード通信部 2 1 E に挿入されたキャッシュカード又はクレジットカード 4 0 の磁気ストライプからクレジットカード番号を読み出し、当該クレジットカード番号と、このときユーザが操作部 2 1 G を介して入力したキャッシュカード又はクレジットカード 4 0 の暗証番号と、キャッシュカード又はクレジットカード 4 0 の使用要求及びその金額を通信部 2 1 H を介して電子マネー管理部 1 0 (図 1) に送信する。このとき、入金端末装置 2 1<sub>x</sub> の相互認証部 2 1 C は、C P U 2 1 A が通信する通信先が正規の通信先であるか否かを判断するようになされている。

【0036】

そして、電子マネー管理部 1 0 は入金端末装置 2 1<sub>x</sub> から送信されたクレジットカード番号、ユーザ入力の暗証番号、キャッシュカード又はクレジットカード 4 0 の使用要求及びその金額を通信回線を介してキャッシュカードやクレジットカードを管理する銀行・クレジット会社管理コンピュータ 1 0 0 に送信する。

【0037】

銀行・クレジット会社管理コンピュータ 1 0 0 は、ユーザが所有する各キャッシュカードやクレジットカードについて、そのキャッシュカード番号やクレジットカード番号と正規の暗証番号とを管理しており、このとき電子マネー管理部 1 0 から送信されたクレジットカード番号及びユーザ入力の暗証番号の組み合わせが正規の組み合わせである場合に、当該送信されたクレジットカードの使用要求を受け付ける。

【0038】

そして、銀行・クレジット会社管理コンピュータ 1 0 0 は、このとき電子マネー管理部 1 0 から送信されたキャッシュカード番号やクレジットカード番号で指定された口座の残高の確認及び当該キャッシュカード又はクレジットカード 4 0 の期限、紛失届け情報等に基づくカード使用の可否を判断する。

【0039】

このとき指定された金額が指定口座に残っていると共にキャッシュカード又はクレジットカード 4 0 の使用が可能である場合には、銀行・クレジット会社管理コンピュータ 1 0 0 は当該金額の利用を承認し、その旨を電子マネー管理部 1 0

に返送すると共に、当該金額を指定口座から電子マネー管理部10の総合サーバ16に移す。これに対して指定された金額が指定口座で不足している場合又はキャッシュカードやクレジットカード40の期限や紛失届け情報等により当該カードの使用が承認されない場合、銀行・クレジット会社管理コンピュータ100は当該金額の利用を承認せず、その旨を電子マネー管理部10に返送する。

## 【0040】

電子マネー管理部10は承認判断結果を入金端末装置21<sub>x</sub>に送信することにより、入金端末装置21<sub>x</sub>のCPU21Aは図10のステップSP15において承認判断結果を通信部21Hを介して受信する。

## 【0041】

そして当該承認判断結果が承認可である場合、CPU21AはステップSP16からステップSP18に移ってユーザが指定した金額をICカード50に送信する。これにより、ICカード50の制御部50は入金端末装置21<sub>x</sub>から送信された入金金額データをRAM58の電子マネー残高に加えることにより、当該電子マネーの残高を表す残高データD22（図7（B））を更新する。

## 【0042】

そしてCPU21Aは、レシート掃出部21Iから当該取引内容を印刷したレシートを掃出し、ステップSP19において当該入金処理手順を終了する。

## 【0043】

これに対して、ステップSP15において受信した承認判断結果が承認不可である場合、CPU21AはステップSP16からSP17に移って、このときユーザがクレジットカード通信部21Eに挿入したキャッシュカード又はクレジットカード40の使用承認が得られない旨をタッチパネル21Tの表示部21Fに表示し、ステップSP19において当該入金処理手順を終了する。

## 【0044】

かくして、ICカード50に対してユーザ所望の金額データ（電子マネー）が現金を用いて入力されると、当該現金による入力分の金額データが入金端末装置21<sub>x</sub>から電子マネー管理部10の総合サーバ16に送信及び格納され、また、ICカード50に対してユーザ所望の金額データ（電子マネー）がキャッシュカ

ード又はクレジットカード40を用いて入力されると、このとき銀行・クレジット会社管理コンピュータ100は、ICカード50に入力した金額データ（電子マネー）相当の金額データをこのときキャッシュカード又はクレジットカード40によって指定された口座から電子マネー管理部10に送信し、総合サーバ16に格納する。

## 【0045】

これにより、電子マネー管理部10の総合サーバ16はICカード50に入金された電子マネーの金額相当（現金入金分及び、キャッシュカード又はクレジットカード入金分を含む）の金額データを保持することになる。

## 【0046】

このようにしてICカード50には、現金、キャッシュカード又はクレジットカードによる種々の入金方法によりユーザ所望の金額データ（電子マネー）が入力される。そして、ユーザは当該金額データが入力されたICカード50を用いて各店舗での買い物等を行うことができる。

## 【0047】

各店舗には、例えばPOS(Pointing On Sale)レジスタを接続してなる電子マネー端末装置 $25_x$  ( $25_1 \sim 25_n$ ) が設けられている。この電子マネー端末装置 $25_x$  は、図12に示すように、当該電子マネー端末装置 $25_x$  が設置された店舗の店員が操作する本体部 $25_J$  と、ICカード50を使用するユーザがICカード50を近づけることにより当該ICカード50との間で利用に際してのデータの受渡しを非接触で行うICカード書込み読取り部 $25_K$  を有する。

## 【0048】

本体部 $25_J$  の外装部には表示部 $25_F$  及び操作部 $25_G$  が一体化されたタッチパネルを有し、操作部 $25_G$  として四則演算キー $25_{G_1}$ 、ファンクションキー $25_{G_2}$ 、百円キー $25_{G_3}$  及び千円キー $25_{G_4}$  等が設けられている。各ファンクションキー $25_{G_2}$  には、利用頻度の高い商品の値段を予め設定することができ、本体部 $25_J$  を操作する店員は、ファンクションキー $25_{G_2}$  及び四則演算キー $25_{G_1}$  を例えば「 $F1 \times 3 + F2 \times 2$ 」のように操作することにより、複数の商品購入に対して容易にその値段を入力することができる。因みに、百



円キー 25G<sub>3</sub> 及び千円キー 25G<sub>4</sub> は、店員が商品の値段を四則演算キー 25G<sub>1</sub> の数字キーを用いて入力する際に使用される。

## 【0049】

また、ICカード書込み読取り部 25K は、ICカード 50 に対して非接触でデータの授受を行うカード通信部 21D (図5のループアンテナ 62 及び変復調回路 61 と同様構成) と、取引内容が表示される表示部 25L とをその外装部に有する。この電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> を用いる場合、ユーザが ICカード 50 を電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> の ICカード書込み読取り部 25K にかざす (接近させる) 行為を行うことにより、当該ユーザに ICカード 50 の利用意思 (すなわち消費意思) があると判断するようになされている。

## 【0050】

表示部 25L は、本体部 25J において店員が操作部 25G を介して入力した売上金額が表示される売上金額表示部 25L<sub>1</sub> と、ICカード 50 の残高が不足した際に、当該不足金額を表示する差引額表示部 25L<sub>2</sub> と、このとき ICカード 50 を利用した後の ICカード 50 の電子マネー残高を表示する残高表示部 25L<sub>3</sub> とを有する。

## 【0051】

そして、図13に示すように、電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> においてその CPU 25A は記憶部 25B に格納されているプログラムに従い、図14に示す ICカード使用手順を実行するようにされている。CPU 25A はユーザが ICカード 50 を ICカード書込み読取り部 25K のカード通信部 25D に接近させると共に、店員が本体部 25J の操作部 25G を操作することにより取引開始操作を行うと、図14に示すステップ SP20 から当該 ICカード使用手順に入り、続くステップ SP21 に移って、まず、ユーザが電子マネーによる支払いを利用するか又は分割払いによる支払いを利用するかを判断する。すなわち、店員はユーザがいずれの支払い方法を所望するかに応じて、操作部 25G のファンクションキー 25G<sub>2</sub> の一つとして設けられている支払い方法設定キーを操作することにより、電子マネーによる利用又は分割払いによる利用のいずれかを入力し、CPU 25A は当該入力に応じて利用方法を判断する。

## 【0052】

そして、当該指定された利用方法が電子マネーによる利用である場合、CPU 25Aは、ステップSP22に移ってICカード50からカード番号等の情報及び後述する過去の利用履歴データを読み出すと共に操作部25Gを介して店員が売上金額を入力するのを待ち受ける。

## 【0053】

因に、このときCPU25AはICカード50から使用禁止フラグD26（図7（B））が立っているか否かを読み取って、当該使用禁止フラグD26が立っているときはそのICカード50の受け付けを禁止するようになされている。使用禁止フラグD26の詳細については後述する。

## 【0054】

ここで、店員が商品の値段を操作部25Gを介して入力すると、CPU25Aは続くステップSP23に移り、当該売上金額に基づいてICカード50のRAM58に格納されている残高データD22（図7（B））から売上金額分を減算すると共に、当該減算した電子マネー利用金額を電子マネー端末装置25<sub>x</sub>の記憶部25Bの電子マネー利用額記憶領域にICカード50のカード番号及び利用日時情報と共に格納する。因みに、利用日時は、本体部25Jに設けられたタイマ25Tにより検出される。

## 【0055】

ここで、ICカード50に格納されている電子マネーの残高に対して消費しようとする金額が高い場合、CPU25Aは表示部25F及び差引額表示部25L<sub>2</sub>に表示すると共に、続くステップSP24からステップSP25に移り、ICカード50に記憶されているクレジットカード利用可能フラグ（図7（B））を読み取り、利用可能状態であればステップSP26に移ってこのときの不足分をクレジットカード利用額として電子マネー端末装置25<sub>x</sub>の記憶部のクレジットカード利用額記憶領域に格納する。

## 【0056】

これにより、ICカード50の残高から取り込んだ金額は電子マネー端末装置25<sub>x</sub>の記憶部25Bに電子マネー利用情報としてICカード50のカード番号

及び利用日時情報と共に格納され、クレジットカード利用額として消費された金額は電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> の記憶部 2 5 B にクレジットカード利用情報として IC カード 5 0 のカード番号及び利用日時情報と共に格納される。

## 【 0 0 5 7 】

因みに、IC カード 5 0 をユーザに配付する際、ユーザが利用するカード会社発行の利用可能なクレジットカードの番号と当該ユーザに配付される IC カード 5 0 のカード番号とを電子マネー管理部 1 0 の発行データサーバ 1 4 ( 図 2 ) において登録すると共に IC カード 5 0 の RAM 5 8 のクレジットカード利用フラグ D 2 4 ( 図 7 ( B ) ) を利用可能状態としておくようになされている。そして、電子マネー管理部 1 0 は、定期的にカード会社に対して当該クレジットカードの番号によりそのカードの使用可否を、有効期限、支払いの遅延の有無、盗難や紛失の届け出の有無等により確認する。

## 【 0 0 5 8 】

当該確認の結果登録されているクレジットカードが使用不可である場合、電子マネー管理部 1 0 は各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> ( 2 5<sub>1</sub> ~ 2 5<sub>n</sub> ) に対して、使用不可であるクレジットカードの番号が登録されているユーザの IC カード 5 0 のカード番号とクレジットカードが使用不可である旨を表す情報を送信する。これにより、各端末装置 2 5 ( 2 5<sub>1</sub> ~ 2 5<sub>n</sub> ) は、その IC カード 5 0 が使用されたとき、電子マネーの残高が不足してもクレジットカードの利用分として割り振ることなく、残高が不足していることを表示部 2 5 F 及び 2 5 L に表示すると共に、当該 IC カード 5 0 のメモリのクレジットカード利用可能フラグを利用不可に設定する。

## 【 0 0 5 9 】

IC カード 5 0 のメモリに設定したクレジットカード利用可能フラグが利用不可に変更されると、各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> ( 2 5<sub>1</sub> ~ 2 5<sub>n</sub> ) は当該 IC カード 5 0 に予め入金された電子マネーの消費のみを行うことになる。従って、この場合電子マネー端末装置 2 5 の CPU 2 5 A は図 1 4 のステップ S P 2 5 からステップ S P 2 7 に移り、クレジットカード利用不可である旨を表示部 2 5 F 及び 2 5 L に表示する。

## 【 0 0 6 0 】

これに対して、図 1 3 のステップ S P 2 1 において分割払いによる利用方法が選択されると、C P U 2 5 A はステップ S P 1 0 0 に移って、I C カード 5 0 からカード番号等の情報及び後述する過去の利用履歴データを読み出すと共に使用禁止フラグ D 2 6 の状態を確認し、使用禁止フラグ D 2 6 が立っている場合には当該 I C カード 5 0 の受付を禁止する。これに対して使用禁止フラグ D 2 6 が立っていない場合には、C P U 2 5 A は続くステップ S P 1 0 1 に移って、図 7 ( B ) について上述した I C カード 5 0 の分割払いフラグ D 2 7 を確認し、当該分割払いフラグ D 2 7 が立っていない場合には、C P U 2 5 A は表示部 2 5 F に分割払いの登録が行われていない旨を表示し、上述のステップ S P 2 1 に戻って再度利用方法の入力を待ち受ける。

## 【 0 0 6 1 】

因みに、I C カード 5 0 をユーザに配付する際、ユーザが分割払いによる利用を希望するときは電子マネー管理部 1 0 の発行データサーバ 1 4 ( 図 2 ) は当該 I C カード 5 0 のカード番号に対応させた分割払いの登録を総合サーバ 1 6 のデータベース 1 6 C に対して行うようになされている。

## 【 0 0 6 2 】

従って、I C カード 5 0 に分割払いフラグ D 2 7 が立っている場合は、C P U 2 5 A はステップ S P 1 0 2 に移って、店員が利用金額を入力するのを待ち受ける。そして、店員が商品の値段を操作部 2 5 G を介して入力すると、C P U 2 5 A は続くステップ S P 1 0 3 に移り、当該売上金額を分割払い利用金額として電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> の記憶部 2 5 B の分割払い利用額記憶領域に I C カード 5 0 のカード番号及び利用日時情報と共に格納する。

## 【 0 0 6 3 】

これにより分割払いの利用による金額は電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> の記憶部 2 5 B に分割払い利用情報として I C カード 5 0 のカード番号及び利用日時情報と共に格納される。この場合、記憶部 2 5 B は第 1 の蓄積手段として動作する。

## 【 0 0 6 4 】

因みに、分割払いによる利用を行った場合、電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> の C P

U25Aは、ICカード50のRAM58に格納されている残高データD22（図7（B））の更新は当然行わない。

【0065】

そして、一連のICカード50の利用に関する処理が完了すると、電子マネー端末装置25のCPU25Aは、ステップSP28に移って、このときの利用履歴をICカード50のRAM58に電子マネーログデータD23（図7（B））として書き込んだ後、ステップSP29において当該ICカード使用手順を終了する。

【0066】

この結果、電子マネー端末装置25の記憶部25Bには、ICカード50を利用した際の利用履歴として、予めICカード50に格納されている電子マネーによる利用額及び当該電子マネーが不足した際にクレジットカードの利用に振り換えられたクレジットカード利用額とが分けて記録される。因みに、このとき記憶部25Bには利用日時及びICカード番号が利用額と共に利用履歴データとして記録される。

【0067】

ここで、ICカード50のRAM58に書き込まれる電子マネーログデータD23（図7（B））は、図15（A）に示すように、例えば12の項目からなる32 [byte]のデータで1つの利用履歴ブロックを構成し、当該利用履歴ブロックが過去15ブロック分（15回利用分）だけサイクリックに書き込まれるようになされている。

【0068】

この利用履歴ブロックには、当該ブロックに書き込まれる利用時の通信をICカード50で特定するための通信特定情報D23<sub>1</sub>と、当該利用履歴における電子マネーの利用形態（入金、消費等の利用形態と、消費が電子マネー残高を利用したものであるか又はその不足分をクレジットカード利用に振り換えたものであるか若しくは分割払いでの利用であるかの種別）を表すログタイプ情報D23<sub>2</sub>と、利用日時情報D23<sub>3</sub>と、使用した電子マネー端末装置25<sub>x</sub>の番号を表すターミナル番号情報D23<sub>4</sub>と、当該利用履歴における取引（利用）金額情報D

2 3<sub>5</sub> と、ICカード利用時における通信データの暗号化キーのバージョンを表すキーバージョン情報D 2 3<sub>6</sub> と、取引（利用）後のICカード内の電子マネー残額を表す利用後残額情報D 2 3<sub>7</sub> と、当該取引（利用）時の電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> とICカード5 0との通信において電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> が当該通信を特定するための通信特定情報D 2 3<sub>8</sub> と、上述のキーバージョン情報D 2 3<sub>6</sub> で指定されたキーを用いて表現されたサイン情報D 2 3<sub>9</sub> とを有する。

【0 0 6 9】

このようにICカード5 0の制御部 5 9は各利用ごとに1つの利用履歴ブロック（図1 5（A））からなる電子マネーログデータD 2 3を形成するようになされている。この場合の利用単位とは、ICカード5 0に予め格納されている電子マネーによる利用と、当該電子マネーが不足した際にクレジットカード利用分に振り分けられた利用とを別々の単位（利用履歴）としており、これらの利用単位ごとに別々の利用履歴ブロックを形成するようになされている。

【0 0 7 0】

このようにしてICカード5 0を利用するごとに作成される電子マネーログデータD 2 3は、図1 4について上述したICカード使用手順のステップSP 2 8においてICカード5 0のRAM 5 8に書き込まれる一方、図1 4について上述したステップSP 2 3、ステップSP 2 6及びステップSP 1 0 3において電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> の記憶部 2 5 Bにも蓄積される。

【0 0 7 1】

この場合、電子マネー端末装置 2 5のCPU 2 5 Aは、図1 5（B）に示すICカード5 0を特定するカード特定情報D 2 3 Aを電子マネーログデータD 2 3（図1 5（A））に付加して記憶部 2 5 Bに書き込む。

【0 0 7 2】

すなわち、カード特定情報D 2 3 Aは、当該カード特定情報 2 3 Aを付加する電子マネーログデータD 2 3において利用されたICカードを表すICカード番号D 2 3 A<sub>1</sub> と、このとき電子マネーログデータD 2 3を書き込む電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> が電子マネーログデータD 2 3が作成されたカード利用時の電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> と同一であるか否かを表す取引ターミナルフラグD 2 3 A<sub>2</sub>

と、当該電子マネーログデータD23を電子マネー端末装置25<sub>x</sub>に書き込む際の通信データの暗号化キーのバージョンを表すキーバージョン情報D23A<sub>3</sub>と、キーバージョン情報D23A<sub>3</sub>で指定されたキーを用いて表現されたサイン情報D23A<sub>4</sub>とを有する。

【0073】

因みに、電子マネー端末装置25<sub>x</sub>のCPU25Aは、電子マネーログデータD23を、当該電子マネーログデータD23が作成されたカード利用時においてICカード50のRAM58に書き込むと共に、当該電子マネーログデータD23にカード特定情報D23Aを付加して電子マネー端末装置25<sub>x</sub>の記憶部25Bに書き込む。ここで、ICカード50に書き込まれた電子マネーログデータD23は、過去15回の利用分だけICカード50に蓄積されており、これらの電子マネーログデータD23は、新たに当該ICカード50が利用されるごとに当該ICカード50を利用した電子マネー端末装置25<sub>x</sub>にカード特定情報D23Aと共に書き込まれる。

【0074】

従って、電子マネー端末装置25<sub>x</sub>は、ICカード50が利用されるごとに、当該ICカード50に書き込まれている過去15回の利用分の電子マネーログデータD23を記憶部25Bに書き込むようになされており、当該書込む過去の電子マネーログデータD23のターミナル番号情報D23A<sub>4</sub>が他の電子マネー端末装置25<sub>x</sub>を表す情報であると、カード特定情報D23Aの取引ターミナルフラグD23A<sub>2</sub>により、当該電子マネーログデータD23が他の電子マネー端末装置25<sub>x</sub>による取引を表すものであることを表示するようになされている。そしてこの表示は、電子マネー管理部10による決済時に使用される。

【0075】

因みに、図16に示すように、ICカード50(50<sub>1</sub>、50<sub>2</sub>……50<sub>n</sub>)を使用する際に、当該各ICカード50(50<sub>1</sub>、50<sub>2</sub>……50<sub>n</sub>)に蓄積されているそれぞれの過去15回使用分の電子マネーログデータD23(1<sub>1</sub>)~D23(15<sub>1</sub>)、D23(1<sub>2</sub>)~D23(15<sub>2</sub>)、D23(1<sub>n</sub>)~D23(15<sub>n</sub>)が毎回電子マネー端末装置25<sub>x</sub>に書き込まれることにより、同一の電子マネー端末装置

25<sub>x</sub> に対して同一の IC カード 50 を複数回使用すると、当該電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> には同一の電子マネーログデータ D 2 3 が書き込まれる場合が生じるが、この場合電子マネー端末装置 25 の CPU 25 A は図 15 に示した電子マネーログデータ D 2 3 の通信特定情報(Card Transaction S/N (A)) D 2 3<sub>1</sub> に基づいて同じ電子マネーログデータ D 2 3 を破棄する。

## 【0076】

これにより、1つの電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> には、IC カード 50 (50<sub>1</sub>、50<sub>2</sub>、……50<sub>n</sub>) が使用されたときこれらの IC カード 50 (50<sub>1</sub>、50<sub>2</sub>、……50<sub>n</sub>) から読み取られた過去 15 回使用分の電子マネーログデータ D 2 3 と、当該使用時に発生した新たな電子マネーログデータ D 2 3 が重複なく記憶される。

## 【0077】

この状態においては、複数の電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> (25<sub>1</sub>、25<sub>2</sub>、……25<sub>n</sub>) に、各 IC カード 50 (50<sub>1</sub>、50<sub>2</sub>、……50<sub>n</sub>) の同じ電子マネーログデータ D 2 3 が記憶されていることになる。但し、これら各電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> に分散して記憶された同じ電子マネーログデータ D 2 3 のうち、当該電子マネーログデータ D 2 3 が発生した取引時 (IC カード利用時) に使用した電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> に記憶される電子マネーログデータ D 2 3 には、当該電子マネーログデータ D 2 3 と共に記憶されているカード特定情報 D 2 3 A (図 15 (B)) の取引ターミナルフラグ(Terminal Transaction Flag) D 2 3 A<sub>2</sub> (図 15 (B)) が立っており、電子マネー管理部 10 に集められた電子マネーログデータ D 2 3 のうち、取引ターミナルフラグが立っている電子マネーログデータ D 2 3 のみが決済時に使用される。

## 【0078】

かくして、電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> には IC カード 50 を使用する毎の金額、カード番号、日時情報が利用履歴 (電子マネーログデータ D 2 3) として蓄積され、電子マネー管理部 10 は、各電子マネー端末装置 25<sub>x</sub> (25<sub>1</sub> ~ 25<sub>n</sub>) に蓄積された IC カード 50 の利用履歴を 1 日に 1 回まとめて取り込む。



【0079】

そして、電子マネー管理部10は、当該取り込まれた各電子マネー端末装置25<sub>x</sub> (25<sub>1</sub> ~ 25<sub>n</sub>)からのICカード利用履歴情報(電子マネーログデータD23及びカード特定情報D23A)のうち、クレジットカード利用情報について、所定の期間ごとに各ICカード50ごとにまとめて集計し、当該集計結果をそのICカード50のカード番号と共に予め登録されているクレジットカード番号に基づいて銀行・カード会社管理コンピュータ100に送信する。

【0080】

このとき、銀行・カード会社管理コンピュータはクレジットカードの利用に振り換えられた分の金額をユーザの口座から引き落とし、電子マネー管理部10に送信することにより総合サーバ16に蓄積する。

【0081】

従って、ユーザがICカード50を利用する際に電子マネー残高が不足した際にクレジットカード利用額として蓄積された金額は、まとめて銀行・カード会社管理コンピュータ100でユーザの口座から引き落とされ、電子マネー管理部10の総合サーバ16に格納される。

【0082】

このように、ユーザがICカード10を使用する際、電子マネー残高に不足が生じてクレジットカードでの利用に振り換えられても、その時直ちに銀行・カード会社管理コンピュータ100に対する引き落とし処理を行わず、後でまとめて引き落とすことにより、電子マネー管理部10から銀行・カード会社管理コンピュータ100への1回の通信で複数利用分の金額の引き落とし請求を行うことができる。このように、ICカード50の1回の使用ごとに通信費用が発生しないことにより、利用金額が小額であってもICカード50(クレジットカード)を利用することができる。

【0083】

そして、電子マネー管理部10は各端末装置25(25<sub>1</sub> ~ 25<sub>n</sub>)から1日に1回ずつまとめて総合サーバ16のデータベース16Cに取り込んだICカード50の利用履歴(電子マネーログデータD23及びカード特定情報D23A)

に基づいて例えば1カ月に1回決済処理を行う。

【0084】

図17は電子マネー管理部10の電子マネーサーバ13が各電子マネー端末装置25<sub>x</sub>から定期的（例えば1日に1回の頻度）に電子マネーログデータD23（図15（A））及びカード特定情報D23A（図15（B））の組み合わせデータ（利用履歴）を総合サーバ16に集め、当該総合サーバ16に蓄積された利用履歴を用いて決済処理を行う処理手順を示し、電子マネーサーバ13はステップSP40から当該処理手順に入ると、続くステップSP41において例えば1日に1回の頻度で各電子マネー端末装置25<sub>x</sub>から、これら電子マネー端末装置25<sub>x</sub>に蓄積された利用履歴を集め、総合サーバ16に格納する。

【0085】

そして、続くステップSP42において電子マネーサーバ13は、例えば1カ月に1回の頻度で行われる決済時であるか否かを判断し、決済時であるときステップSP43に移って、総合サーバ16に蓄積された利用履歴のうち、取引ターミナルフラグ(Terminal Transaction Flag) D23A<sub>2</sub>が立っている利用履歴データを分別ログデータとして分別する。

【0086】

そして、電子マネーサーバ13は続くステップSP44に移り、分別ログデータと他の利用履歴データとを比較する。この比較結果が不一致である場合、このことは電子マネー端末装置25<sub>x</sub>のいずれかにおいてICカード50の使用時に発生した電子マネーログデータD23が失われたことを表しており、このとき電子マネーサーバ13はステップSP45において否定結果を得、ステップSP46に移る。

【0087】

ステップSP46において電子マネーサーバ13は、分別ログデータと一致しない他の利用履歴データを分別ログデータとする。これにより、失われた電子マネーログデータD23については、他の電子マネー端末装置25<sub>x</sub>においてICカード50の利用時に当該ICカード50から読み出された電子マネーログデータD23によって代用される。

## 【 0 0 8 8 】

かくして電子マネーサーバ 1 3 は続くステップ S P 4 7 において分別ログデータのみを用いて決済処理を行い、ステップ S P 4 8 において当該処理手順を終了する。

## 【 0 0 8 9 】

ここで、電子マネーサーバ 1 3 は、総合サーバ 1 6 からの処理開始命令に従って、図 1 8 の決済処理ステップに入るとステップ S P 3 0 から決算処理手順に入り、続くステップ S P 3 1 において電子マネー端末装置から集められた利用履歴（電子マネーログデータ D 2 3 及びカード特定情報 D 2 3 A）をその利用日時情報 D 2 3<sub>3</sub>（図 1 5（A））に基づいて利用時間帯ごとに分類する。因みに、総合サーバ 1 6 のデータベース 1 6 C には、各店舗に対する電子マネーシステム 1 の利用手数料が予め格納されており、当該利用手数料として売上金額に対する手数料率が時間帯ごとに異なる値として設定されている。この実施の形態の場合、IC カード 5 0 の利用時間が午前 5 時から午後 5 時の間（第 1 の時間帯）であるとき手数料率が 5 % とされ、午後 5 時から午前 5 時までの間（第 2 の時間帯）であるとき手数料率が 7 パーセントとして設定されている。

## 【 0 0 9 0 】

従って、電子マネーサーバ 1 3 は図 1 6 のステップ S P 3 1 において第 1 の時間帯及び第 2 の時間帯に分類された電子マネーログデータ D 2 3 を、続くステップ S P 3 2 において時間帯ごとの手数料率を用いて決済する。

## 【 0 0 9 1 】

これにより、電子マネーサーバ 1 3 は、第 1 の時間帯において利用された利用金額には 5 % の利用手数料率を用い、第 2 の時間帯において利用された利用金額には 7 % の利用手数料率を用いて決済処理を行う。

## 【 0 0 9 2 】

これにより、第 1 の時間帯において利用された利用金額からその 5 % の利用手数料が差し引かれると共に、第 2 の時間帯において利用された利用金額からその 7 % の利用手数料が差し引かれた金額が各店舗の利益となる。このようにして決済処理を行った後、電子マネーサーバ 1 3 は続くステップ S P 3 3 に移って、決

済処理の結果に応じた利益額を総合サーバ16のデータベース16Cに蓄積されている金額データから取り出して各店舗の口座に振り込む。このとき、電子マネーサーバ13は各店舗向けの振込明細資料をすべての利用の時間帯別明細と時間帯別の合計データとを出力して各店舗に配付する。

【0093】

このように、時間帯ごとに電子マネー利用手数料率を変えることにより、比較的低額の商品の販売が多くなる昼間には、低い手数料率を設定すると共に比較的高額の商品の販売が多くなる夜間には、高い手数料率を設定することにより、各店舗における商品の値段設定に応じた手数料率を実現できる。

【0094】

そして、電子マネーサーバ13は続くステップSP34に移って、この決済処理において用いられた電子マネーログデータD23のうち、分割払い利用のデータを、予め総合サーバ16のデータベース16Cにカード番号に対応させて登録された分割払い登録リストに加え、各ICカード50ごとに分割払い残高を集計及び利息計算を行った後、ステップSP35に移って当該決済処理を終了する。

【0095】

因みに、各ICカード50ごとに集計された分割払い残高の集計結果は、総合サーバ16のデータベース16Cの分割払い登録リストに対応するICカード50の過去の分割払い残高に加算され利息と共に新たな残高として保存され、ユーザが入金端末装置21<sub>x</sub>（図8及び図9）を介して支払いを行う毎に、当該支払い分だけ残高を減算するようになされている。この場合、総合サーバ16Cのデータベース16Cは分割払い残高を蓄積する第2の蓄積手段として動作し、CPU16Aは分割払い残高管理手段として動作する。

【0096】

すなわち、ユーザが入金端末装置21<sub>x</sub>により分割払い残高を支払う場合、入金端末装置21<sub>x</sub>は、図10について上述したステップSP80においてユーザの支払い受付処理を実行する。この支払い受付処理において、入金端末装置21<sub>x</sub>のCPU21Aは、図19に示すステップSP80からステップSP81に移り、ICカード50からカード番号を読み取り、当該カード番号に対応した分割払

い残高を総合サーバ 1 6 のデータベース 1 6 C から受け取る。このとき、総合サーバ 1 6 の CPU 1 6 A は、分割払い残高の例えば 1 5 % を最低支払い額として算出し、当該最低支払い額情報を分割払い残高と共に入金端末装置 2 1<sub>x</sub> に送信するようになされている。この場合、最低支払い額を算出する総合サーバ 1 6 及び入金端末装置 2 1<sub>x</sub> は支払い受付手段を構成する。

【 0 0 9 7 】

そして、CPU 2 1 A は続くステップ S P 8 2 において入金端末装置 2 1<sub>x</sub> のタッチパネル 2 1 T に対して図 2 0 ( A ) に示すような支払い方法を選択するための選択画面を、支払い残高及び最低支払い額と共に表示する。この選択画面においてユーザは電子マネーによる支払い選択キー 2 1 T<sub>61</sub> 又は現金による支払い選択キー 2 1 T<sub>62</sub> のいずれかを押圧操作することにより支払い方法を選択する。

【 0 0 9 8 】

この選択においてユーザが電子マネーによる支払いを選択すると、CPU 2 1 A はステップ S P 8 2 からステップ S P 8 3 に移って、図 2 0 ( B ) に示すような数字キー 2 1 T<sub>63</sub> をタッチパネル 2 1 T に表示することにより、支払い金額の入力を促す。ユーザが当該数字キー 2 1 T<sub>63</sub> を操作して所望の支払い額を入力すると、CPU 2 1 A はステップ S P 8 4 に移って、IC カード 5 0 の RAM 5 8 に書き込まれている電子マネー残高からユーザによって入力された支払い額を減算し、当該減算処理を行った旨を電子マネー管理部 1 0 の総合サーバ 1 6 に送信する。このとき総合サーバ 1 6 の CPU 1 6 A は、当該減算された金額を支払い金額としてデータベース 1 6 C に登録されている分割払い残高から減算する。また、このとき IC カード 5 0 の制御部 5 9 は、RAM 5 8 に格納されている残高データ D 2 2 ( 図 7 ( A ) ) を更新する。

【 0 0 9 9 】

これに対して、ステップ S P 8 2 において現金による支払いが選択されると、CPU 2 1 A はステップ S P 8 5 に移って、図 2 0 ( C ) に示す現金投入表示 2 1 T<sub>64</sub> をタッチパネル 2 1 T に表示することにより、ユーザに対して現金の投入を促す。ユーザが現金投入部 2 1 J に所望の現金を投入すると、CPU 2 1 A は当該投入された現金を数え、その結果を図 2 0 ( D ) に示すような投入金額確認

表示 21 T<sub>65</sub>としてタッチパネル 21 Tに表示する。

【0100】

このとき、CPU 21 Aはタッチパネル 21 Tに確認キー 21 T<sub>66</sub>と戻りキー 21 T<sub>67</sub>を表示する。そしてユーザは投入金額が誤っているとき戻りキー 21 T<sub>67</sub>を押圧操作することによりCPU 21 Aはこれに応じて現金投入部 21 Jに現金を戻して当該処理を終了する。また、ユーザは投入金額が正しいとき確認キー 21 T<sub>66</sub>を押圧操作することによりCPU 21 Aはこれに応じて当該支払われた金額データを電子マネー管理部 10の総合サーバ 16に送信する。このとき総合サーバ 16のCPU 16 Aは、データベース 16 Cに登録されている分割払い残高から当該支払われた金額データを減算する。

【0101】

そして、CPU 21 Aはステップ SP 87に移ってこのときユーザが支払った金額を表す支払い明細を印刷し、レシート掃出部 21 I (図 8) から出力し、当該支払い処理を終了し図 10のステップ SP 19に移って入金／支払い処理を終了する。

【0102】

このように、ユーザは例えば毎月 1 回の約定日 (分割支払い日) までに、入金端末装置 21<sub>x</sub>において最低支払い額以上の所望の支払い額を支払うことにより、分割払い利用による支払い額を予め設定することなく、その時々に応じた金額を支払うことができる。

【0103】

次に、ユーザが IC カード 50 を紛失した際の電子マネーシステム 1 の処理を説明する。

【0104】

ユーザが IC カード 50 を紛失すると、当該ユーザはカード紛失届けを電子マネー管理部 10 (電子マネー管理手段、カード紛失対応手段) に提出する。カード紛失届けを受け取った電子マネー管理部 10 のオペレータは、図 4 に示す総合サーバ 16 (残高確定手段) の例えばキーボードでなる操作部 16 D を操作することにより、紛失した IC カードをそのカード番号によって特定する。

【0 1 0 5】

CPU 1 6 Aは、操作部 1 6 Dを介して入力された紛失カードのカード番号をデータベース 1 6 Cに登録する。この実施の形態の場合、総合サーバ 1 6のCPU 1 6 Aは、図 2 1に示す紛失カードに対する紛失対応処理手順を常に実行しており、この処理手順においてCPU 1 6 AはステップSP 5 0から当該処理手順に入ると、続くステップSP 5 1においてカード紛失届けが提出（入力）されたか否かを判断する。

【0 1 0 6】

ここで否定結果が得られると、このことはカードの紛失届けが提出されていないことを表しており、このときCPU 1 6 AはステップSP 5 2に移って、電子マネーログデータ（利用履歴データ）D 2 3を各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub>（2 5<sub>1</sub> ~ 2 5<sub>n</sub>）から収集するタイミングであるか否かを判断する。因みに、この実施の形態の場合、総合サーバ 1 6は、電子マネーサーバ 1 3の管理の基に1日に1回の頻度で各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub>（2 5<sub>1</sub> ~ 2 5<sub>n</sub>）から収集された電子マネーログデータD 2 3をデータベース 1 6 Cに格納するようになされている。

【0 1 0 7】

従って、電子マネーログデータD 2 3の収集タイミングとなるまで、CPU 1 6 AはステップSP 5 1及びステップSP 5 2の処理を繰り返す。電子マネーログデータD 2 3の収集タイミングとなったとき、CPU 1 6 AはステップSP 5 2において肯定結果を得ることにより、ステップSP 5 3に移り、このとき電子マネーサーバ 1 3により各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub>（2 5<sub>1</sub> ~ 2 5<sub>n</sub>）から収集される各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub>に蓄積されている1日分の電子マネーログデータD 2 3をデータベース 1 6 Cに格納する。このステップSP 5 3の処理は、図 1 7について上述したステップSP 4 1の処理と同一処理である。

【0 1 0 8】

そして、CPU 1 6 Aは、続くステップSP 5 4に移って上述のステップSP 5 3における電子マネーログデータD 2 3の収集処理の前（すなわちステップSP 5 3における電子マネーログデータD 2 3の収集処理から過去1日の間）にカ

ード紛失届けが提出されているか否かを判断する。

【0109】

ここで否定結果が得られると、このことはカード紛失届けが提出されてなく紛失カードに対する紛失処理を実行する必要がないことを表しており、このときCPU16Aは上述のステップSP51から同様の処理を繰り返す。

【0110】

また、上述のステップSP51において肯定結果が得られると、このことはカード紛失届けが提出されたことを表しており、このときCPU16AはステップSP58に移って、このとき紛失届けが提出されたICカード50（以下これを紛失カードと呼ぶ）のカード番号に基づき当該紛失カードの使用を停止するためのネガリスト登録命令及び当該紛失カードが使用された際に当該紛失カードに対して使用禁止登録処理（後述する）を実行する指示を各電子マネー端末装置 $25_x$ （ $25_1 \sim 25_n$ ）に対して送信する。これにより、カード紛失届けが提出されると、総合サーバ16は、各電子マネー端末装置 $25_x$ に対して直ちに紛失カードのネガリスト登録命令及び紛失カードへの使用禁止登録処理の指示を送信して紛失カードの取扱を停止させることができる。

【0111】

因みに、総合サーバ16から各電子マネー端末装置 $25_x$ （ $25_1 \sim 25_n$ ）に対して紛失カードのネガリスト登録命令が送信されると、各電子マネー端末装置 $25_x$ （ $25_1 \sim 25_n$ ）のCPU25Aは、このとき指定された紛失カードについて、図22に示すネガリストD58を作成し、記憶部25Bに格納する。このネガリストD58は、紛失カード毎に作成されるリストであり、当該リストがネガリストであることを表すリストタイプ情報D58<sub>1</sub>と、当該ネガリストD58が作成された日付を表す記録日情報D58<sub>2</sub>と、ネガリストD58によって紛失カードの使用停止を開始日を表す使用停止開始日情報D58<sub>3</sub>と、紛失カードの使用停止処理の終了日を表す使用停止終了日情報D58<sub>4</sub>と、当該ネガリストD58によって使用停止処理を行う対象である紛失カードのカード番号情報D58<sub>5</sub>と、当該ネガリストD58の暗号化キーのバージョンを表すキーバージョン情報D58<sub>6</sub>と、キーバージョン情報D58<sub>6</sub>によって指定されたキーを用い



て表現されたサイン情報  $D 5 8_7$  とを有する。

【0 1 1 2】

各電子マネー端末装置  $2 5_x$  ( $2 5_1 \sim 2 5_n$ ) は、それぞれ図 2 2 に示すネガリストを紛失カードについて作成し、IC カード 5 9 が使用されたとき、当該使用された IC カード 5 0 の RAM 5 8 に格納されている IC カード番号  $D 1 1$  (図 7 (A)) とネガリスト  $D 5 8$  のカード番号情報  $D 5 8_5$  とを比較することにより、この IC カード 5 0 が紛失カードであるか否かを判断することができる。因みに、IC カード使用時の処理については後述する。

【0 1 1 3】

そして、ステップ SP 5 8 の処理が終了すると CPU 1 6 A は上述のステップ SP 5 1 に戻って、新たなカード紛失届けの提出があるか否かを判断し、新たなカード紛失届けが提出される毎に、提出された紛失カードのカード番号に基づいて上述のステップ SP 5 8 を実行する。

【0 1 1 4】

このようにして、総合サーバ 1 6 では、1 日に 1 回の頻度で各電子マネー端末装置  $2 5_x$  から電子マネーログデータ  $D 2 3$  を収集する間にカード紛失届けが提出されると、当該カード紛失届けが提出された紛失カードについて、当該カード紛失届けが提出された後、最初に各電子マネー端末装置  $2 5_x$  から電子マネーログデータ  $D 2 3$  の収集処理が行われた後に紛失カードの残高を確定する。この場合、総合サーバ 1 6 の CPU 1 6 A はステップ SP 5 4 において肯定結果を得ることにより、続くステップ SP 5 5 に移る。

【0 1 1 5】

ステップ SP 5 5 の残高確定処理において、CPU 1 6 A は各電子マネー端末装置  $2 5_x$  から収集されたすべての IC カード 5 0 の利用履歴データ (電子マネーログデータ  $D 2 3$ ) のなかから、カード紛失届けが提出された紛失カードについての電子マネーログデータ  $D 2 3$  をカード番号に基づいて集め、当該集められた紛失カードの電子マネーログデータ  $D 2 3$  を用いて、その残高を確定する。

【0 1 1 6】

この場合、CPU 1 6 A は、図 1 5 (A) について上述した電子マネーログデ

ータ D 2 3 のなかの、最新の電子マネーログデータ D 2 3 の電子マネー残額を表す利用後残額情報 D 2 3<sub>7</sub> に基づいて電子マネー残高を確定する。

【0 1 1 7】

このようにして紛失カードの残高が確定すると、CPU 1 6 A はステップ S P 5 6 に移って、当該確定した残高をユーザに対して返金するためのデータを生成すると共にカード再発行の指示を発行データサーバ 1 4 に送信し発行装置 1 5 において紛失カードに代わる新たな IC カード 5 0 を再発行する。この場合、再発行される IC カード 5 0 に対しては紛失カードのカード番号とは異なるカード番号を付与することにより、紛失カードのカード番号を持つ IC カード 5 0 に対してその取扱を停止している各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> において、再発行された IC カード 5 0 の使用を可能とすることができる。

【0 1 1 8】

かくして総合サーバ 1 6 の CPU 1 6 A は、ステップ S P 5 6 における処理を終了した後、ステップ S P 5 7 において紛失カードの紛失対応処理手順を終了する。

【0 1 1 9】

ここで、図 2 1 の紛失対応処理手順のステップ S P 5 8 において、総合サーバ 1 6 から各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> に対して紛失カードの使用停止命令及び紛失カードのネガティブ登録指示が送信されると、各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> は、IC カード 5 0 が使用される毎に実行される図 1 4 のステップ S P 2 1 の処理において、図 2 3 に示す紛失カードに対する使用停止及び使用禁止登録処理を追加して実行する。

【0 1 2 0】

すなわち、各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> の CPU 2 5 A は、電子マネー管理部 1 0 からの紛失カードのネガリスト登録命令及び紛失カードに対する使用禁止登録命令を受け取ると、当該紛失カードに関するネガリスト D 5 8 (図 2 2) を作成して記憶部 2 5 B に格納し、当該ネガリスト D 5 8 の使用停止開始日情報 D 5 8<sub>3</sub> (図 2 2) によって指定された日 (通常はネガリスト D 5 8 が作成された日) 以降は、IC カード 5 0 が使用されて当該 IC カード 5 0 からカード番号を読

み込む処理（図14のステップSP21）を実行する毎に、当該読み込まれたカード番号について、図23のステップSP70から入る紛失カードに対する使用停止及び使用禁止登録処理手順を実行する。この処理のステップSP71において各電子マネー端末装置 $25_x$ （ $25_1 \sim 25_n$ ）のCPU25Aは、使用されたICカード50のカード番号が記憶部25BにネガリストD58として登録された紛失カードのカード番号（カード番号情報D58<sub>5</sub>）と一致するか否かを判断する。

【0121】

ここで否定結果が得られると、このことはこのとき使用されるICカード50は紛失カードではないことを表しており、このときCPU25AはステップSP73に移って使用停止及び使用禁止登録処理を終了すると共に、図14について上述したステップSP21に戻って、ICカード50の使用処理を続行する。

【0122】

これに対してステップSP71において肯定結果が得られると、このことはこのとき使用されるICカード50が紛失カードであることを表しており、このときCPU25Aは、ステップSP72に移って、当該ICカード50（紛失カード）の取り扱いを停止すると共に、当該ICカード50（紛失カード）に対して使用禁止登録処理を行う。

【0123】

使用禁止登録処理とは、紛失カードに対してそのカードのRAM58（図6）に格納されている管理情報D10（図7）の使用禁止フラグD26（図7（B））を立てることにより当該紛失カードを使用不可とする処理である。このように、ICカード50（紛失カード）の管理情報D10に使用禁止フラグD26が立てられると、当該ICカード50（紛失カード）は、各電子マネー端末装置 $25_x$ （ $25_1 \sim 25_n$ ）において例えば第三者により使用が試みられたとき、図14のステップSP21について上述した電子マネー端末装置 $25_x$ （ $25_1 \sim 25_n$ ）による使用禁止フラグD26の確認処理によって紛失カードであることが確認され、使用が禁止される。

【0124】

このように、カード紛失届けが提出されると、各電子マネー端末装置  $25_x$  ( $25_1 \sim 25_n$ ) におけるネガリスト登録によりいずれの電子マネー端末装置  $25_x$  ( $25_1 \sim 25_n$ ) においても紛失カードの取扱いが停止されると共に、いずれかの電子マネー端末装置  $25_x$  ( $25_1 \sim 25_n$ ) において紛失カードの使用が試みられたとき、電子マネー端末装置  $25_x$  は紛失カードそのものに対して使用禁止フラグ D26 を立てる処理を行うことにより、紛失カードそのものを使用禁止状態とすることができる。従って、電子マネー端末装置  $25_x$  及び紛失カードの両方において紛失カードの使用禁止状態を設定することにより、カード紛失届けが提出された紛失カードの使用を確実に停止させることができる。

【0125】

因みに、各電子マネー端末装置  $25_x$  ( $25_1 \sim 25_n$ ) において設定されたネガリスト D58 の使用禁止終了日 D58<sub>4</sub> は、例えば図 21 のステップ SP55 及びステップ SP56 において紛失カードの残高を確定し返金処理を完了する日付以降に設定すれば良い。

【0126】

(2) 実施の形態の動作及び効果

以上の構成において、電子マネーシステム 1 では、ユーザは IC カード 50 を利用する際に、分割支払いによる利用を選択することができる。この場合、分割支払いによる利用分の利用ログ (電子マネーログデータ D23) は一旦電子マネー端末装置  $25_x$  に蓄積された後、総合サーバ 16 のデータベース 16C に集められる。

【0127】

総合サーバ 16 では、分割支払い利用の合計残高の 15% を毎月のユーザに対する最低請求額 (すなわちユーザによる最低支払い額) として設定する。従って、ユーザは毎月の約定日までに、予め設定された最低支払い額以上の任意の金額を入金端末装置  $21_x$  を介して支払う。

【0128】

このように電子マネーシステム 1 の分割支払い方法では、例えば銀行口座から

分割払いの支払い額を引き落とすような外部システムを利用することなく、電子マネーシステム 1 のシステム内でユーザが IC カード 50 を用いて電子マネー又は現金により支払うことになる。従って、外部システムである銀行口座からの引き落としを利用する際に予め必要となる引き落とし額の設定が不必要となり、ユーザは約定日までに所望の金額を自ら任意に（最低支払い額以上）決定して支払えば良い。

## 【0129】

かくして、電子マネーシステム 1 では、ユーザが所持する IC カード 50 は現金そのものの代用として機能することに加えて、分割払いの際の引き落とし口座の代用として機能することにもなる。

## 【0130】

ユーザが分割払い利用分の残高の一部を支払うと、総合サーバ 16 は分割払い利用分の残高からこのとき支払われた額を減算し、その減算結果を新たな残高として保存する。この新たな残高に対して新たに利息が加算される。

## 【0131】

このように、電子マネーシステム 1 の分割払い方法では、ユーザが任意に支払い額を決定できるので、ユーザは当該分割払い方法を利用することにより高額商品を購入し易くなる。

## 【0132】

以上の構成によれば、ユーザが分割払いの利用により消費した分の利用額を電子マネーログデータ D23 として総合サーバ 16 のデータベース 16C に蓄積し、ユーザが入金端末装置 21<sub>x</sub> から当該総合サーバ 16C にアクセスして分割払い利用分の毎月の支払いを行うようにしたことにより、ユーザが毎月の支払い額を任意に決定することができる。

## 【0133】

かくするにつき、分割払い方法を有効に利用し得る電子マネーシステム 1 を実現できる。

## 【0134】

## (3) 他の実施の形態

なお上述の実施の形態においては、非接触型の IC カード 5 0 を用いる場合について述べたが、本発明はこれに限らず、接触型の IC カードを用いるようにしても良い。

【 0 1 3 5 】

また上述の実施の形態において、各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> に蓄積された IC カード 5 0 の利用履歴（電子マネーログデータ D 2 3）を 1 日に 1 回の頻度でまとめて電子マネー管理部 1 0 が収集すると共に、電子マネー管理部 1 0 は 1 カ月に 1 回決済を行う場合について述べたが、本発明はこれに限らず、各電子マネー端末装置 2 5<sub>x</sub> からの利用履歴の収集タイミング及び決済処理のタイミングは種々のタイミングを適用することができる。

【 0 1 3 6 】

また上述の実施の形態においては、入金端末装置 2 1<sub>x</sub> に分割払い用の支払い受付機能を持たせた場合について述べたが、本発明はこれに限らず、支払い専用の装置を別途設けるようにしても良い。

【 0 1 3 7 】

また上述の実施の形態においては、ユーザが自ら入金端末装置 2 1<sub>x</sub> を操作して分割払い利用分の毎月の支払いを行う場合について述べたが、本発明はこれに限らず、予めユーザ及び電子マネー管理部 1 0 の間において取決めを行った後、ユーザが IC カード 5 0 を利用した際に、当該 IC カード 5 0 を受け付けた装置が毎月 1 回当該 IC カード 5 0 から最低支払い額を引き出して総合サーバ 1 6 に送信するようにしても良い。この場合、ユーザに最低支払い額以上の金額を支払う意思があるときは、自ら入金端末装置 2 1<sub>x</sub> を操作して支払いを行うようにすれば良い。

【 0 1 3 8 】

また上述の実施の形態においては、分割払いの支払いを毎月 1 回とした場合について述べたが、本発明はこれに限らず、種々の支払い頻度を適用することができる。

【 0 1 3 9 】

また上述の実施の形態においては、分割払い残高の 1 5 % を最低支払い額とし

た場合について述べたが、本発明はこれに限らず、種々の率を最低支払い額として設定することができ、さらに最低支払い額は分割支払い残高に対する割合に代えて一定額とするようにしても良い。

【0 1 4 0】

【発明の効果】

上述のように本発明によれば、消費金額分の金額データを情報カードから引き出すことに代えて消費金額分の金額データを分割払い利用履歴データとして蓄積し、蓄積された分割払い残高の一部又は全部を分割支払い金として受け付け、分割払い残高から受け付けられた分割支払い金額を減算して新たな残高を決定することにより、ユーザは分割支払い金として分割支払い残高のうち任意の金額を分割支払い金として支払うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明による電子マネーシステムの全体構成を示すブロック図である。

【図 2】

電子マネー管理部の構成を示すブロック図である。

【図 3】

セキュリティサーバの構成を示すブロック図である。

【図 4】

総合サーバの構成を示すブロック図である。

【図 5】

情報カードの構成を示す略線的斜視図である。

【図 6】

情報カードの構成を示すブロック図である。

【図 7】

情報カードに書き込まれるデータを示す略線図である。

【図 8】

入金端末装置の外観を示す斜視図である。

【図 9】

入金端末装置の構成を示すブロック図である。

【図 10】

入金端末装置による入金／支払い処理手順を示すフローチャートである。

【図 11】

入金端末装置の表示例を示す略線図である。

【図 12】

電子マネー端末装置の外観を示す斜視図である。

【図 13】

電子マネー端末装置の構成を示すブロック図である。

【図 14】

電子マネー端末装置の情報カード使用手順を示すフローチャートである。

【図 15】

電子マネーログデータの構成を示す略線図である。

【図 16】

電子マネーログデータの流れを示す略線的ブロック図である。

【図 17】

ログデータの分別処理手順を示すフローチャートである。

【図 18】

電子マネー管理部による決済処理手順を示すフローチャートである。

【図 19】

支払い受付処理手順を示すフローチャートである。

【図 20】

入金端末装置の表示例を示す略線図である。

【図 21】

総合サーバのカード紛失対応処理手順を示すフローチャートである。

【図 22】

ネガリストのデータ内容を示す略線図である。



【図 2 3】

電子マネー端末装置における紛失カードに対する使用停止及び使用禁止登録処理手順を示すフローチャートである。

【符号の説明】

1 ……電子マネーシステム、1 0 ……電子マネー管理部、1 1 ……セキュリティサーバ、1 3 ……電子マネーサーバ、1 4 ……発行サーバ、1 5 ……発行装置、1 6 ……総合サーバ、1 7 ……アクセスサーバ、1 8 ……自販機サーバ、1 9<sub>x</sub> ……自販機、2 1<sub>x</sub> ……入金端末装置、2 5<sub>x</sub> ……電子マネー端末装置、5 0 ……ICカード、1 0 0 ……銀行・カード会社管理コンピュータ、D 5 8 ……ネガリスト。

【書類名】図面

【図 1】

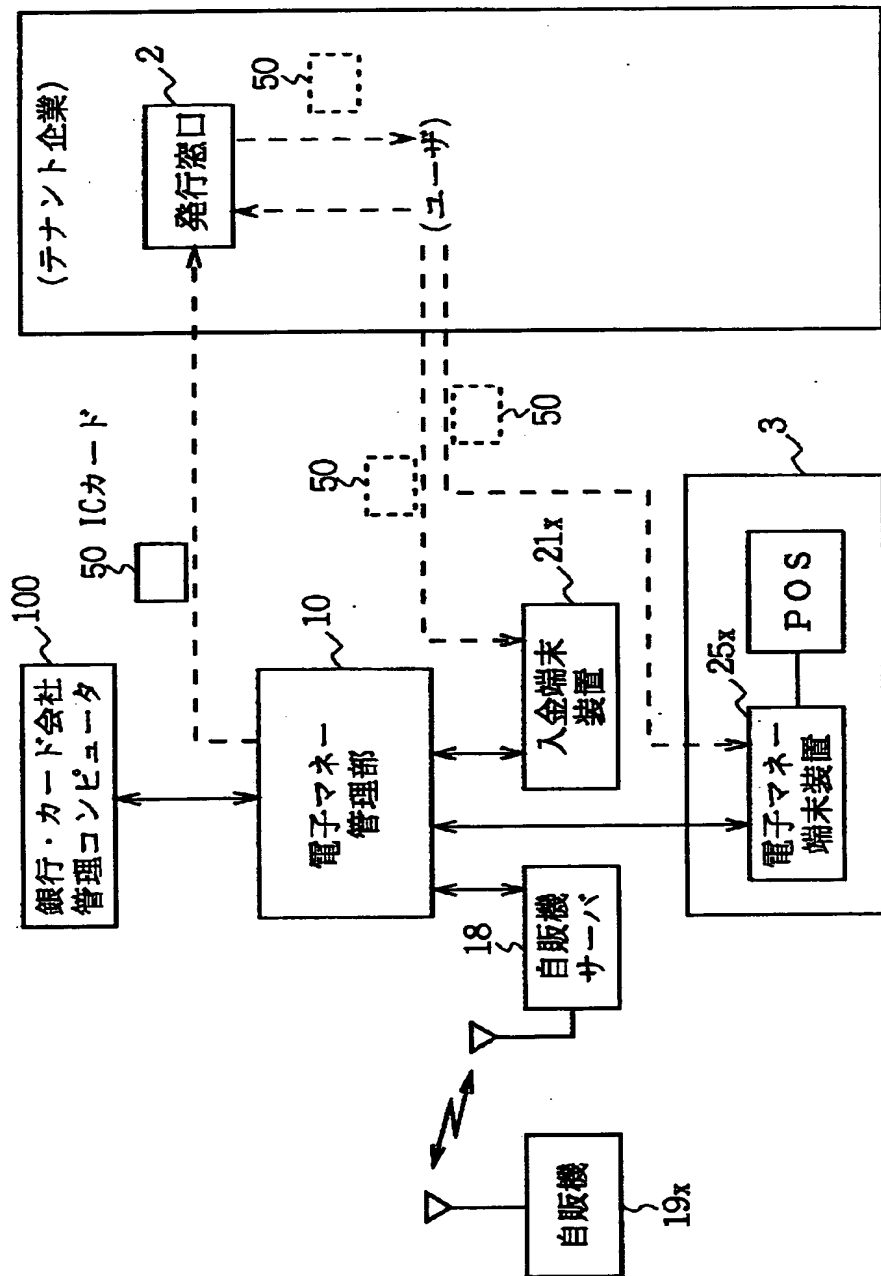


図 1 電子マネーシステムの全体構成

【図 2】

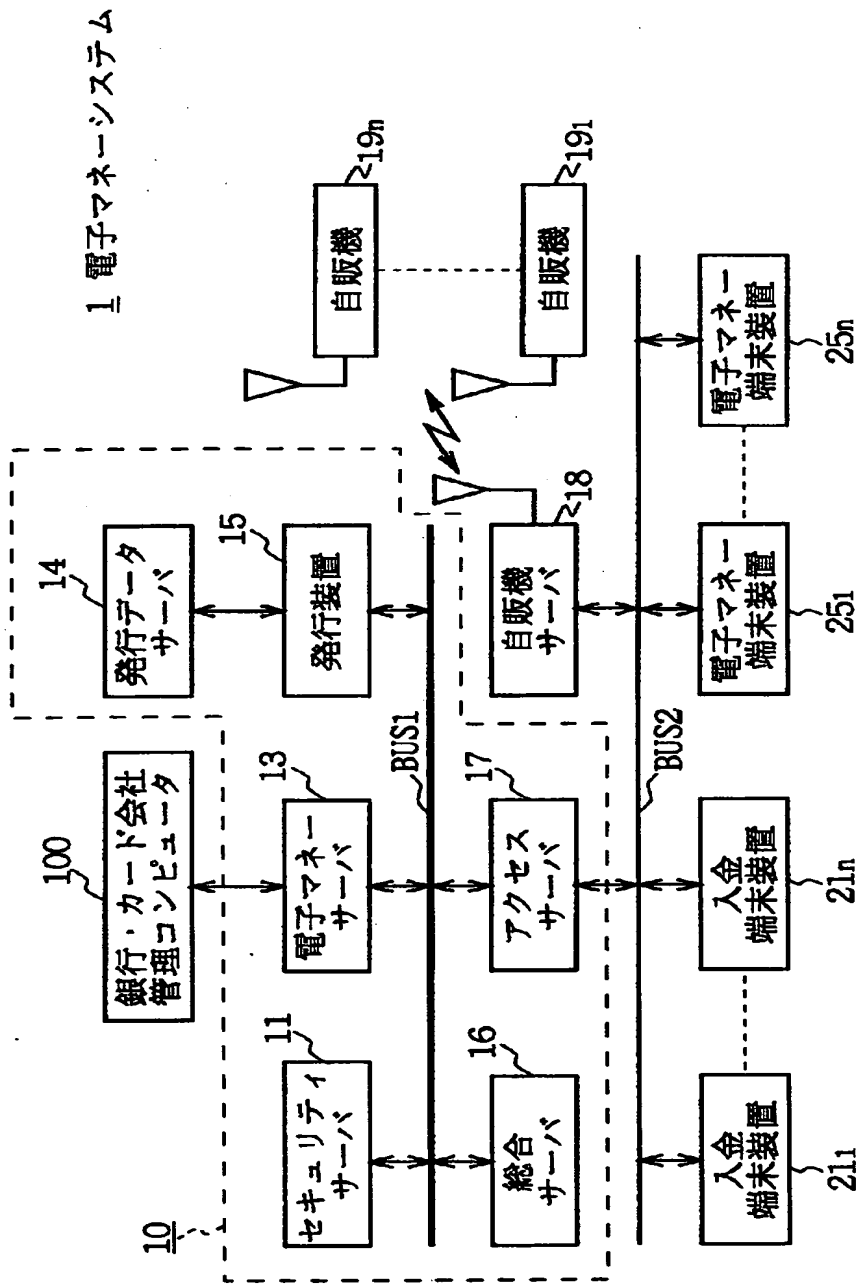


図 2 電子マネー管理部の構成

【図 3】

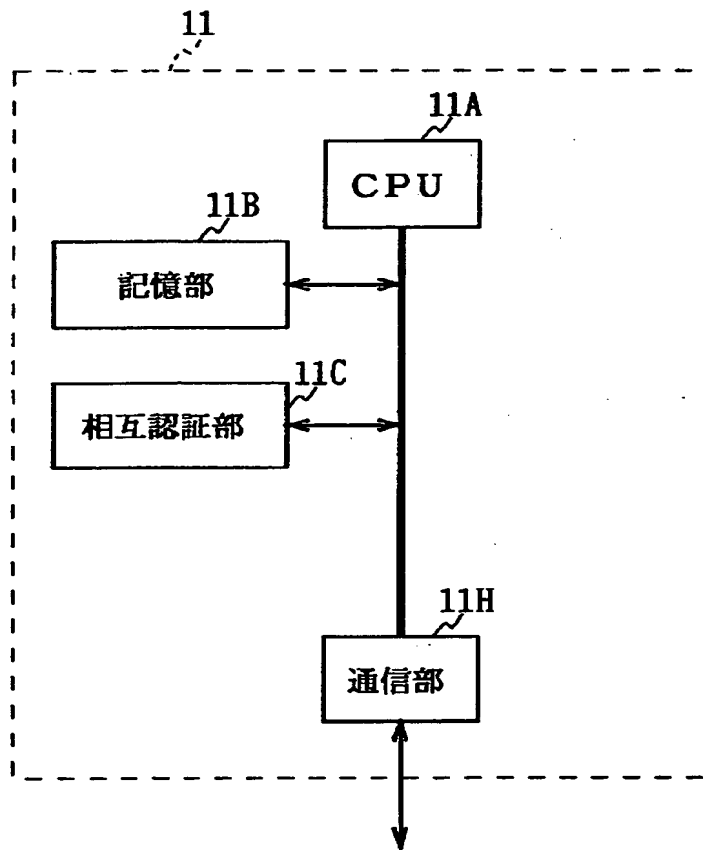


図3 セキュリティサーバの構成

【図 4】

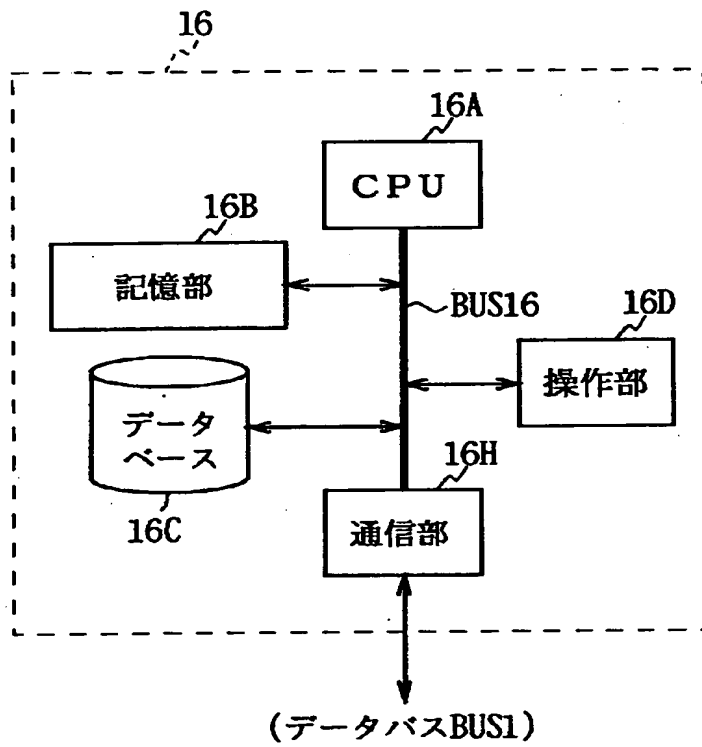


図 4 総合サーバの構成

【図 5】

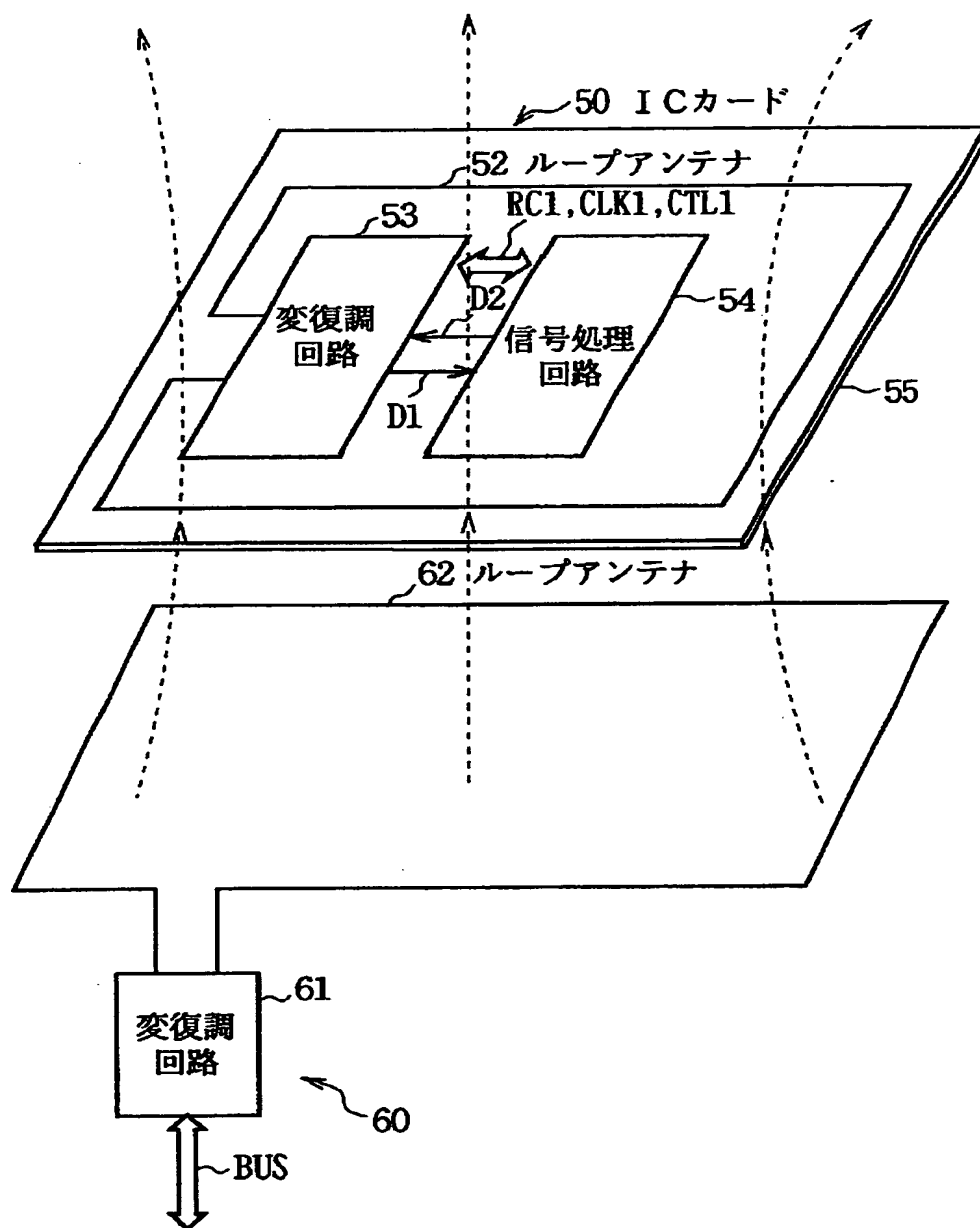


図 5 非接触 IC カードの構成

【図 6】

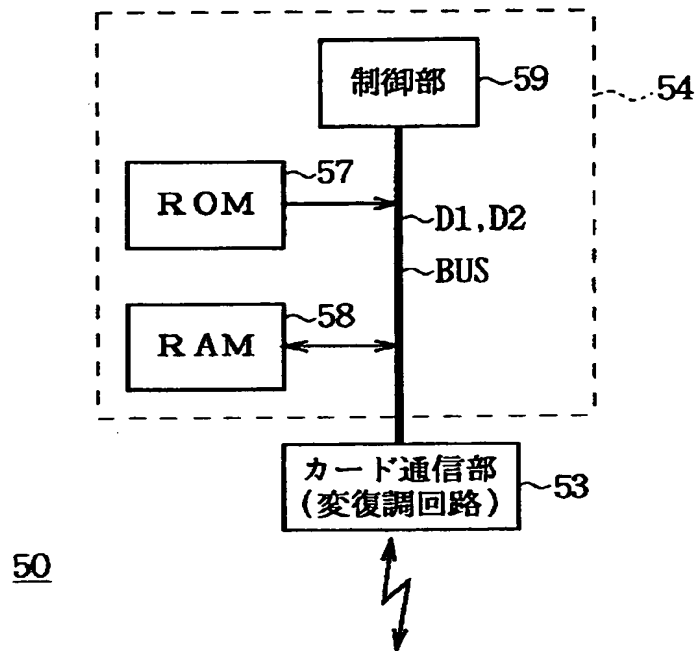


図6 ICカードの構成

【図 7】

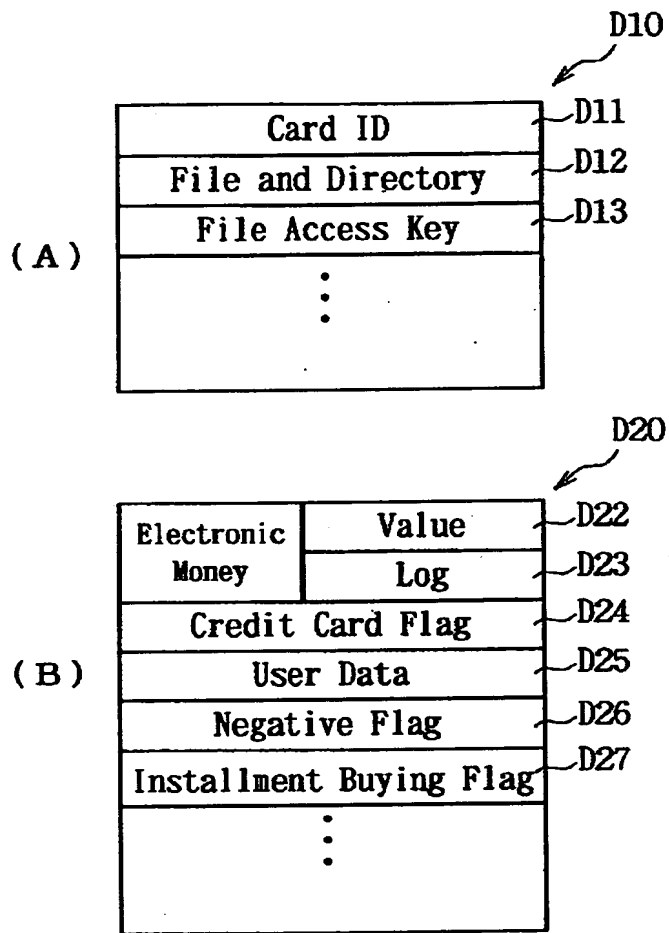


図7 ICカードのデータ



【図 8】

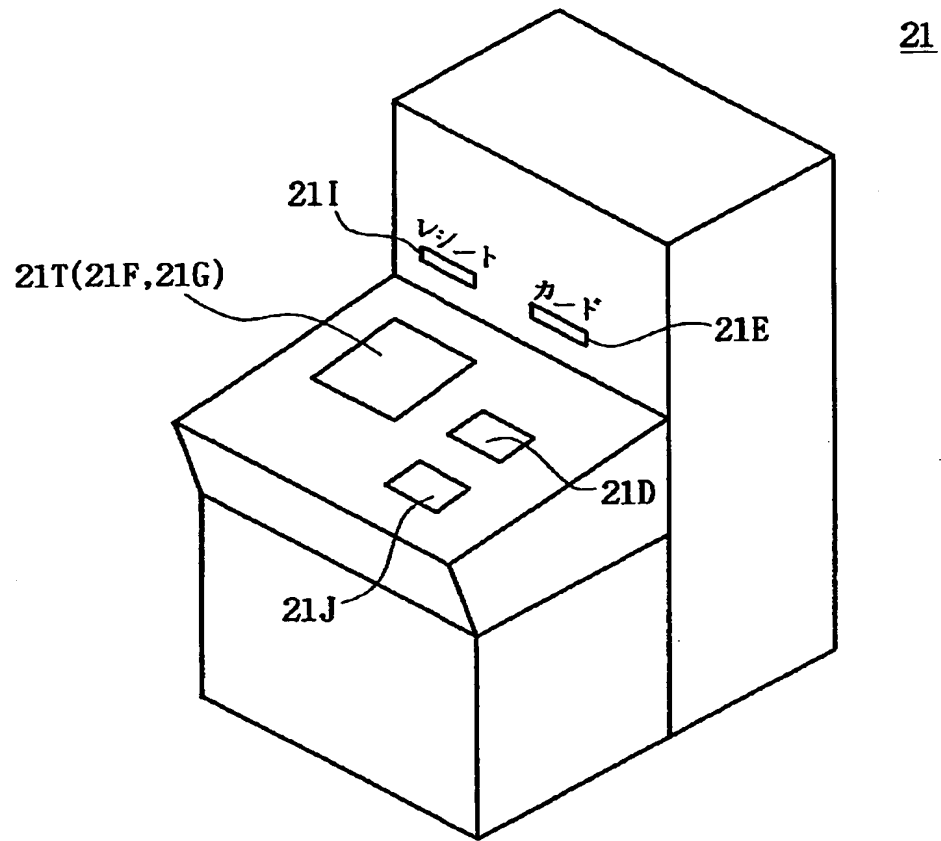


図 8 入金端末装置の外観

【図 9】

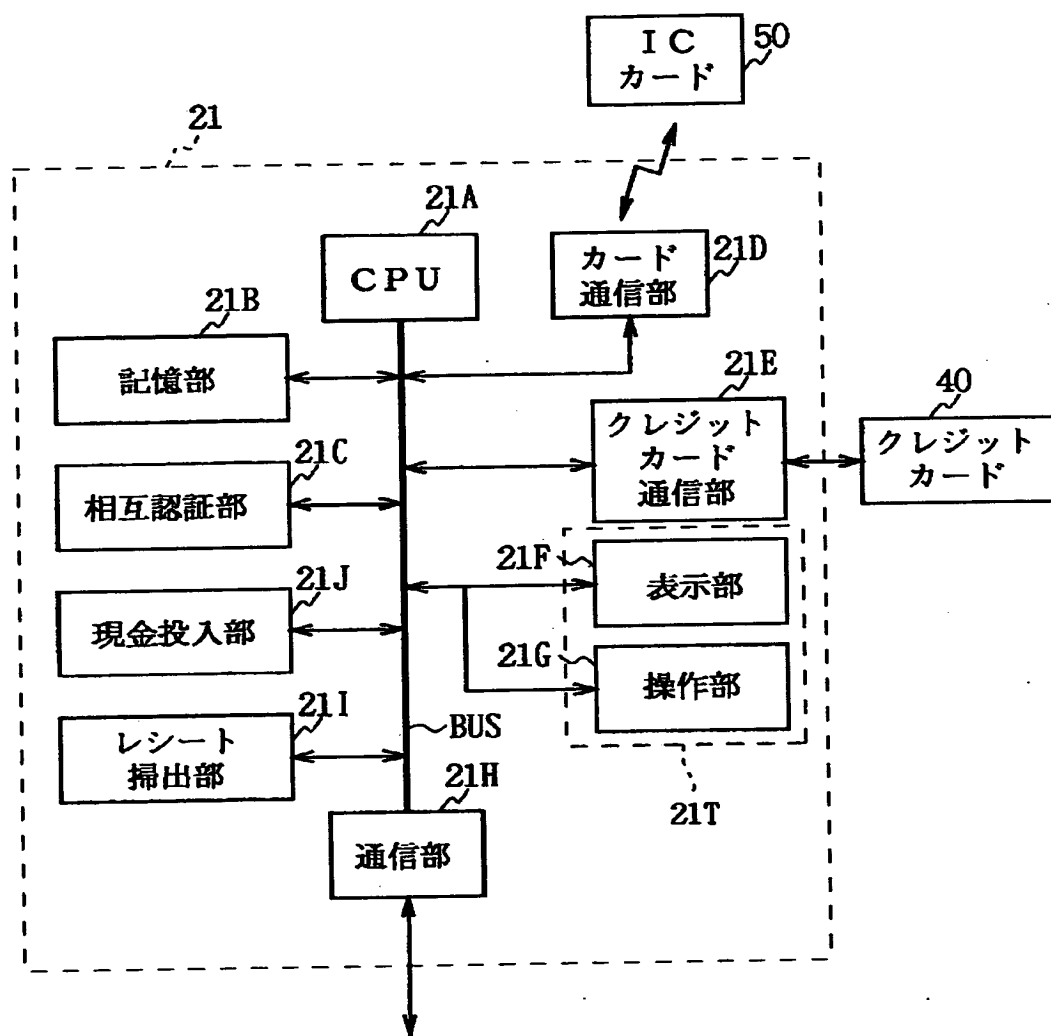


図 9 入金端末装置の構成

【図 1 0】

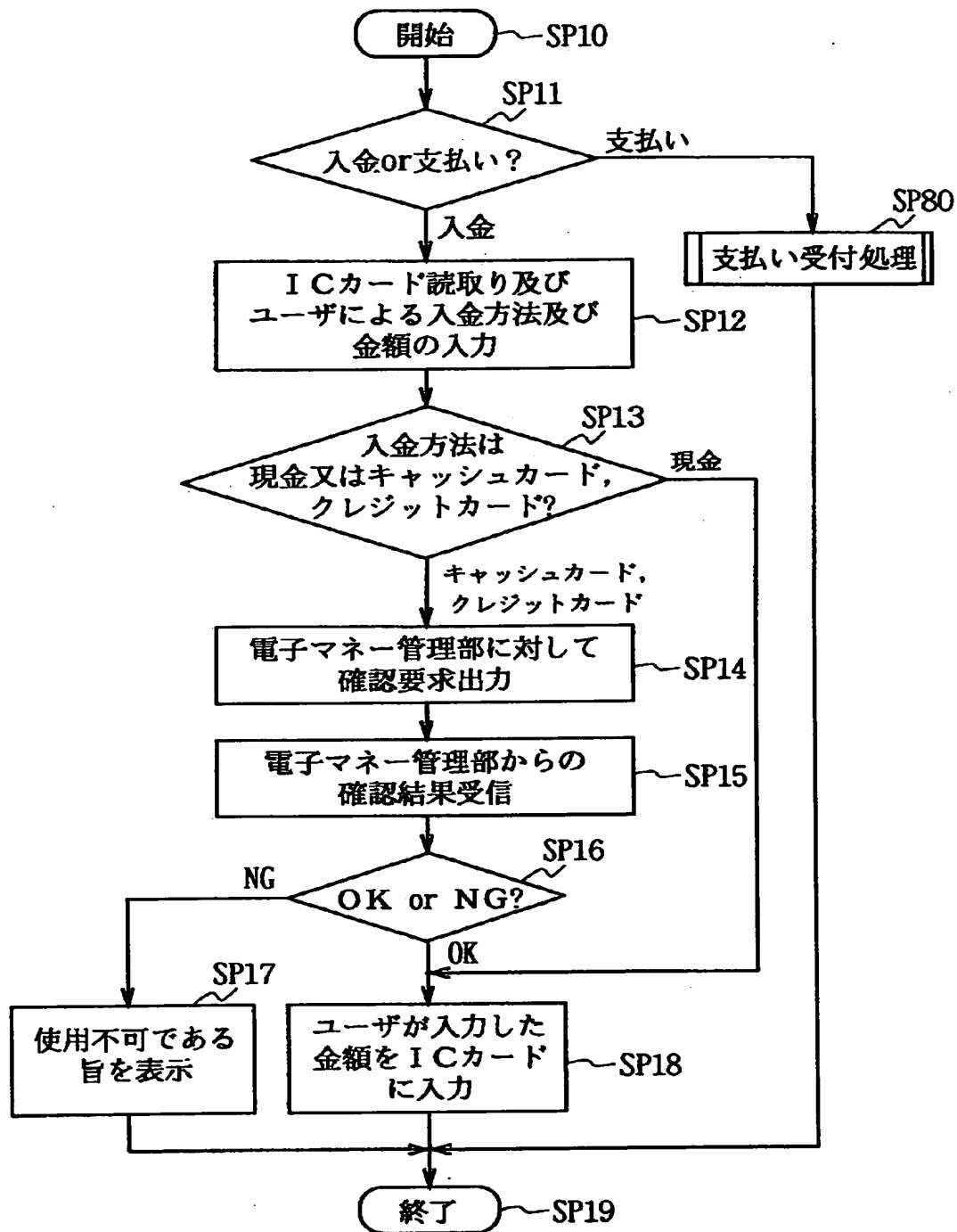


図 1 0 入金支払い処理手順

【図 11】

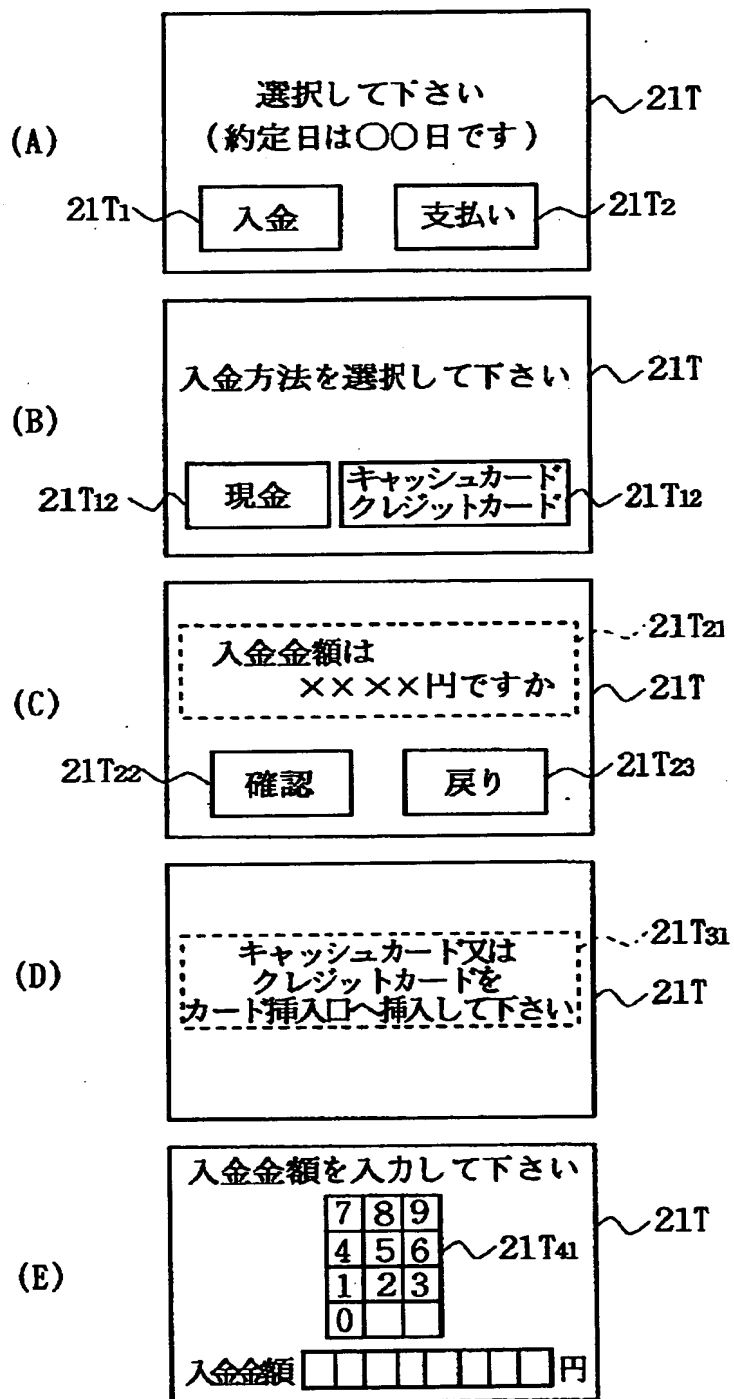


図 11 入金端末装置の表示例

【図 1 2】

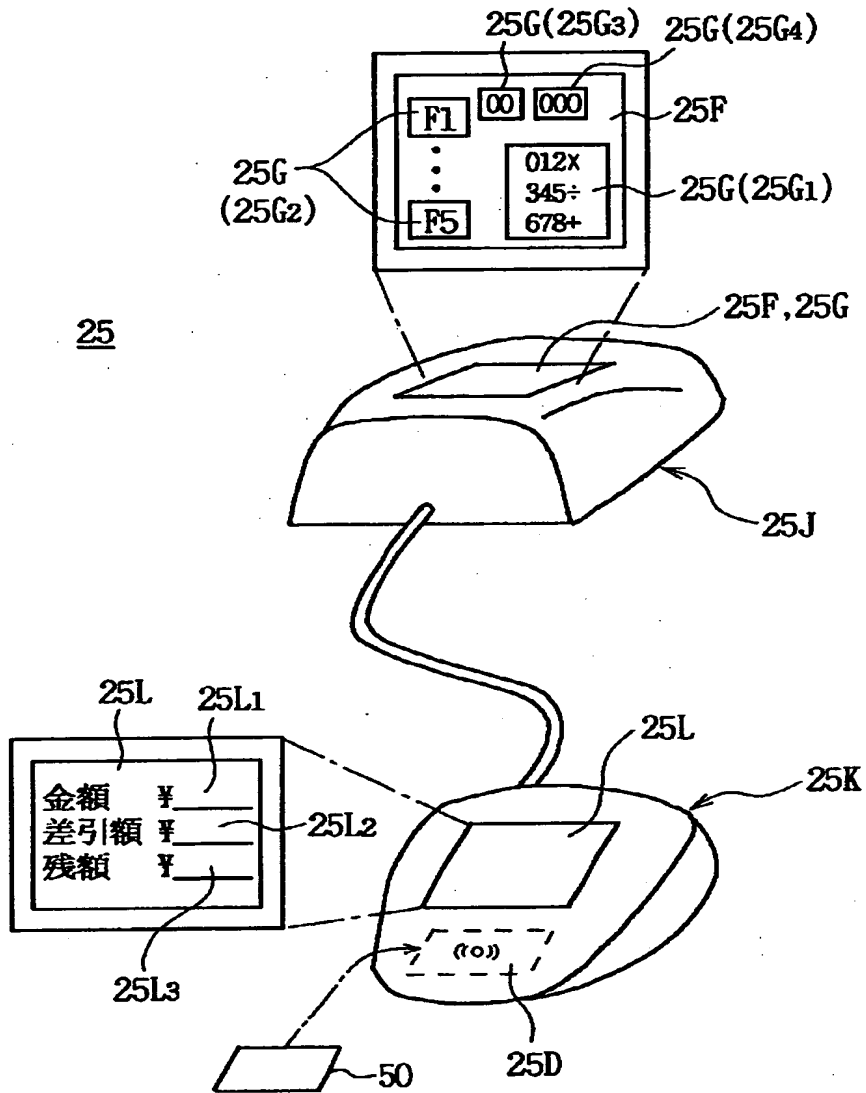


図 1 2 電子マネー端末装置の外観

【図 1 3】

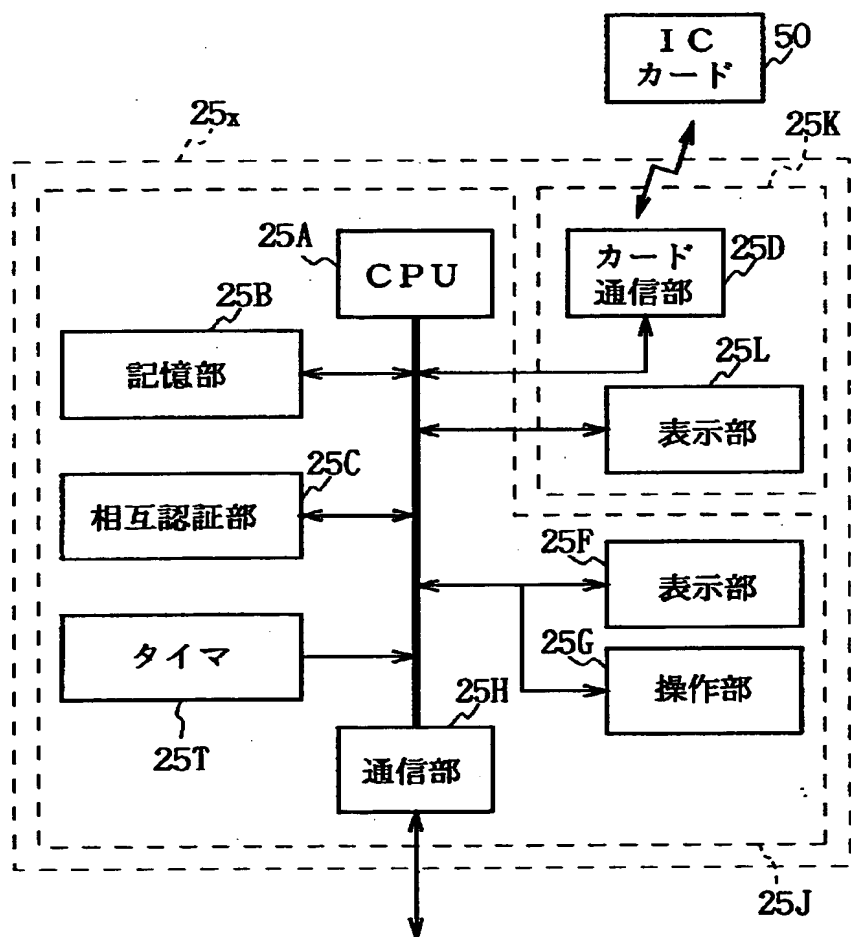


図 1 3 電子マネー端末装置の構成

【図 14】

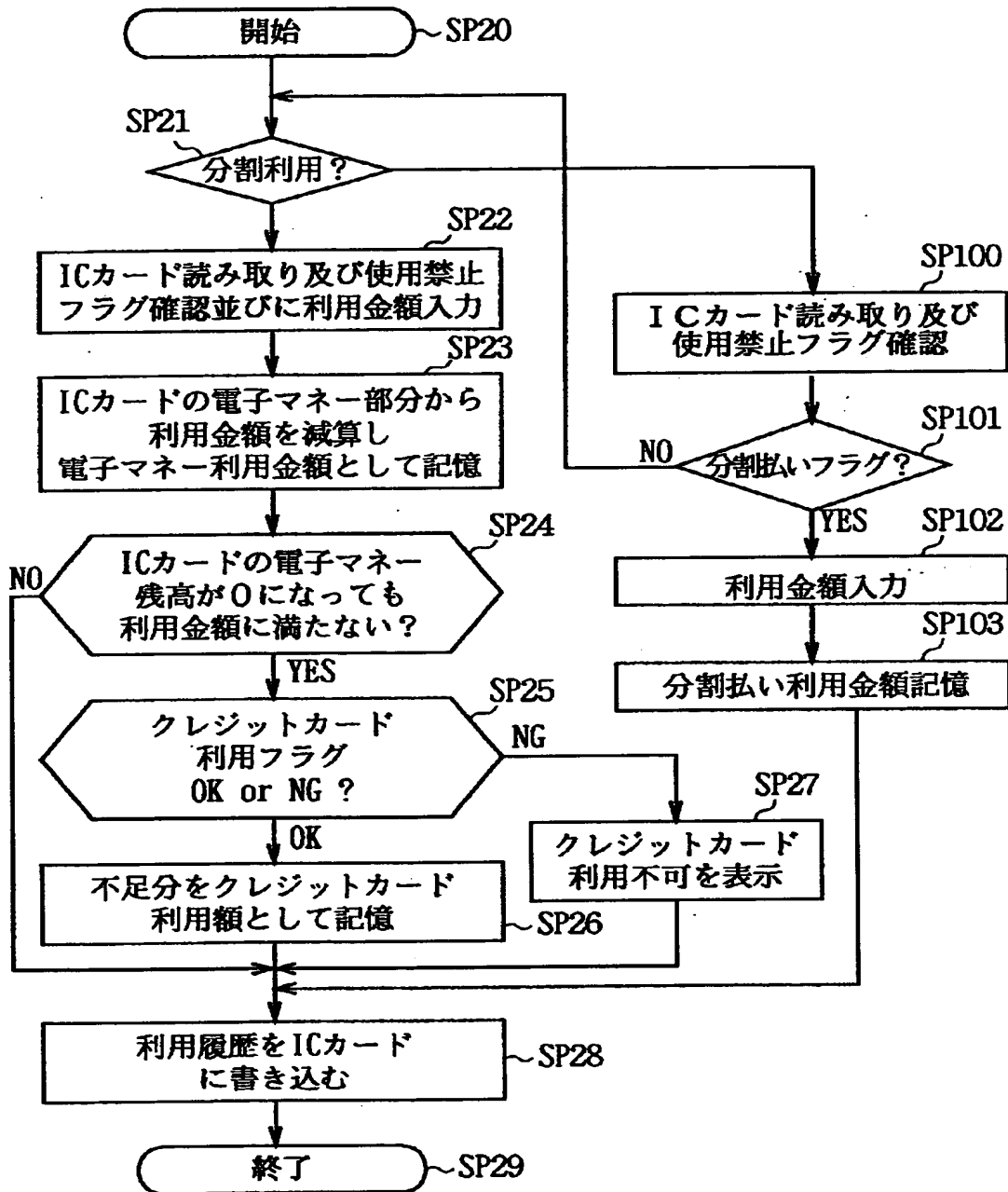


図 14 電子マネー端末装置のICカード使用手順

【図 1 5】

D23

	内容	byte
D23 <sub>1</sub> ~	1 Card Transaction S/N (A)	32byte
D23 <sub>2</sub> ~	2 Log Type	
	3 (Reserved)	
D23 <sub>3</sub> ~	4 Data/Time	
D23 <sub>4</sub> ~	5 Terminal Number	
D23 <sub>5</sub> ~	6 Dealing Value (unsigned)	
	7 Card Transaction S/N (B)	
D23 <sub>6</sub> ~	8 Signature1 Key Version	
D23 <sub>7</sub> ~	9 Balance Data	
D23 <sub>8</sub> ~	10 Terminal Transaction S/N	
	11 (Reserved)	
D23 <sub>9</sub> ~	12 Signature1	

(A)

D23A

D23A <sub>1</sub> ~	13 Card IDm	16byte
D23A <sub>2</sub> ~	14 Terminal Transaction Flag	
	15 (Reserved)	
D23A <sub>3</sub> ~	16 Signature2 Key Version	
D23A <sub>4</sub> ~	17 Signature2	

(B)

図 1 5 電子マネーログデータ（利用履歴データ）



【図 1 6】

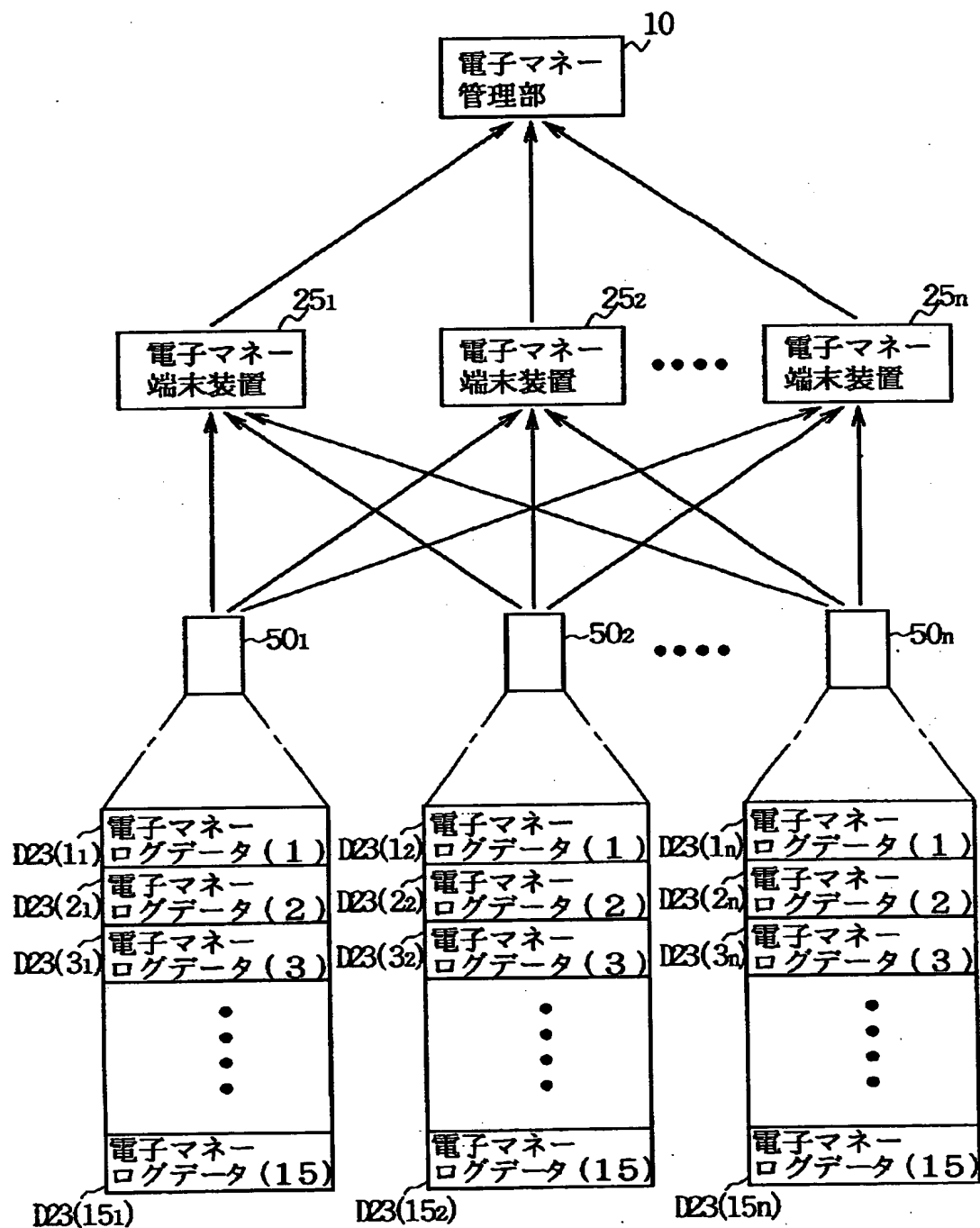


図 1 6 電子マネーログデータの流れ

【図 17】

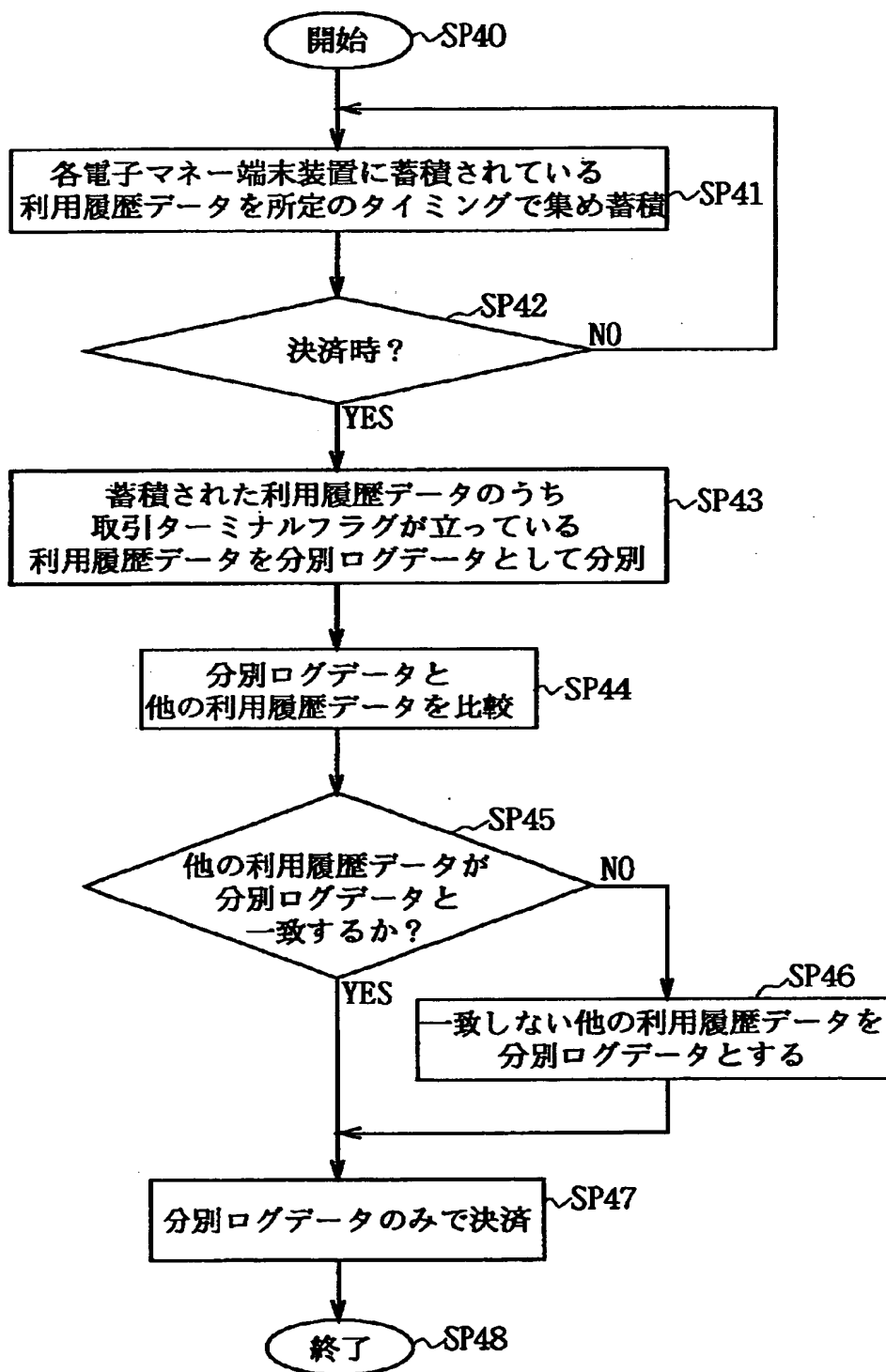


図 17 電子マネーログデータ（利用履歴データ）の収集処理

【図 1 8】

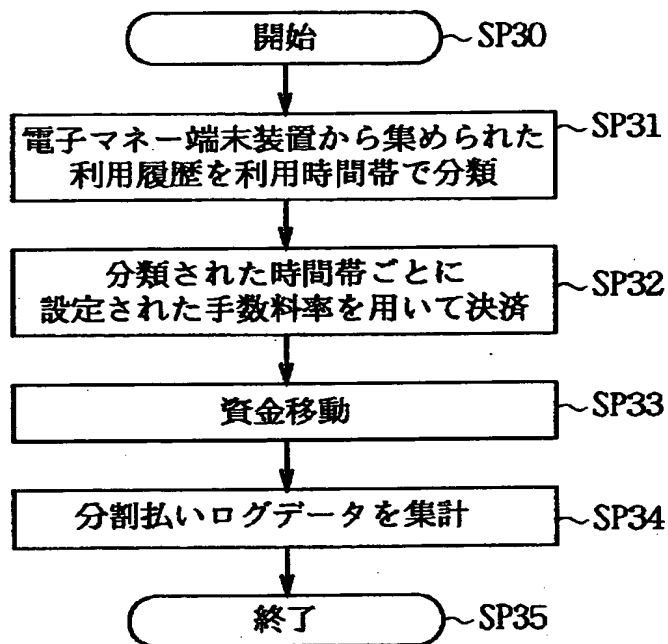


図 1 8 決済処理手順

【図 19】

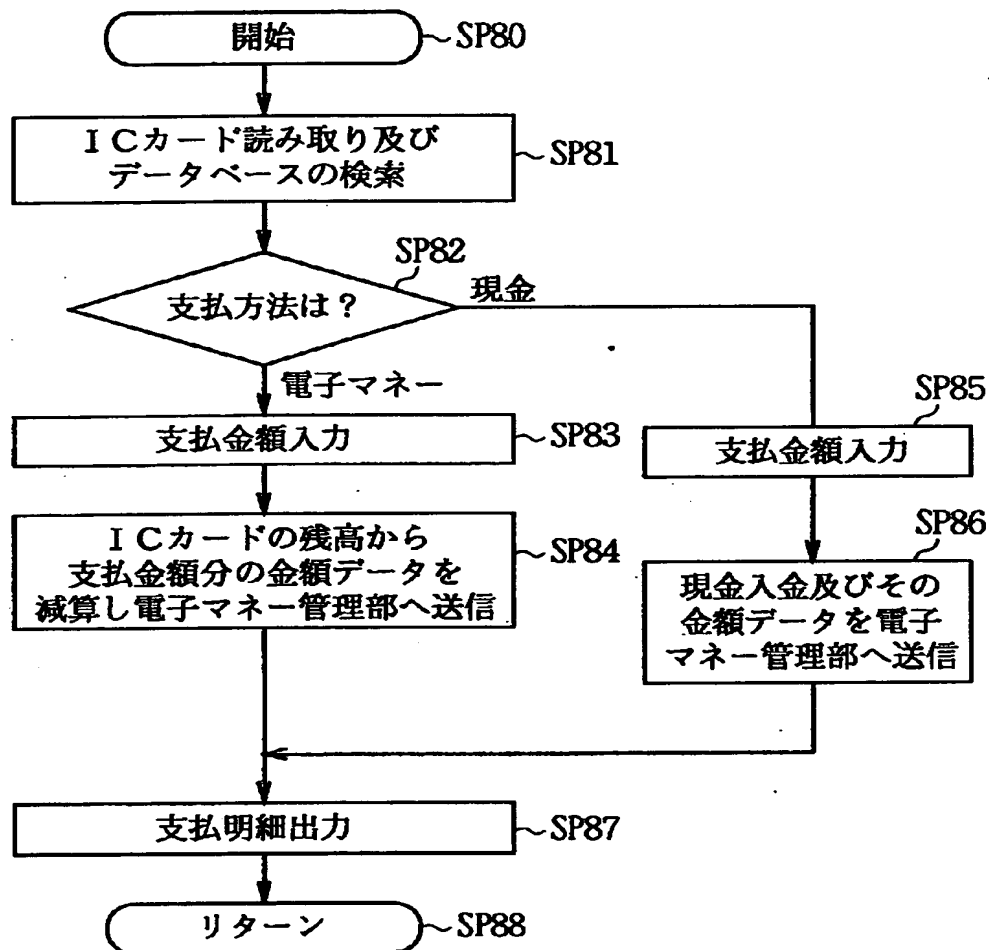


図 19 支払い受付処理

【図 2 0】

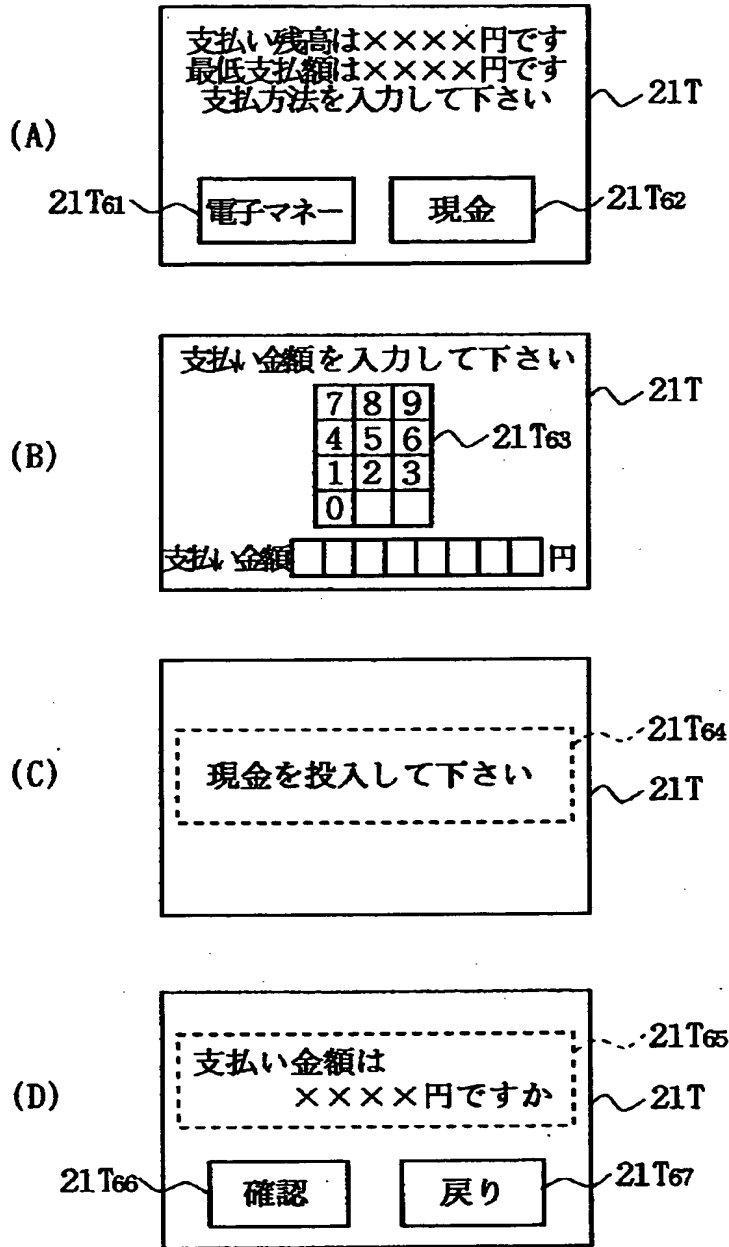


図 2 0 入金端末表示の表示例

【図 2 1】

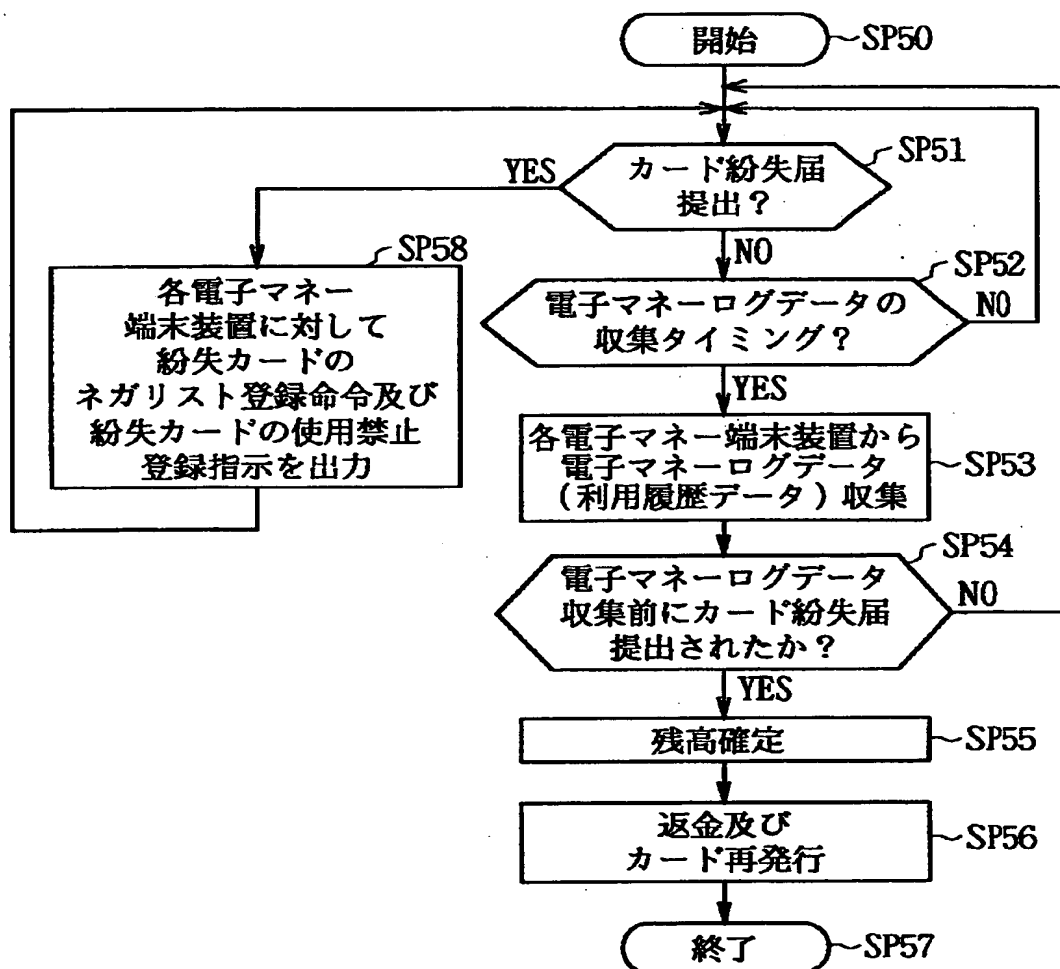


図 2 1 総合サーバのカード紛失対応処理手順

【図 2 2】

D58

		内容	byte
D581 ~	1	Negative List Type	32byte
	2	(Reserved)	
D582 ~	3	Date(registered)	
D583 ~	4	Date(start)	
D584 ~	5	Date(end)	
D585 ~	6	Card IDm	
	7	(Reserved)	
D586 ~	8	Signature key Version	
D587 ~	9	Signature	

図 2 2    ネガリストデータ

【図 2 3】

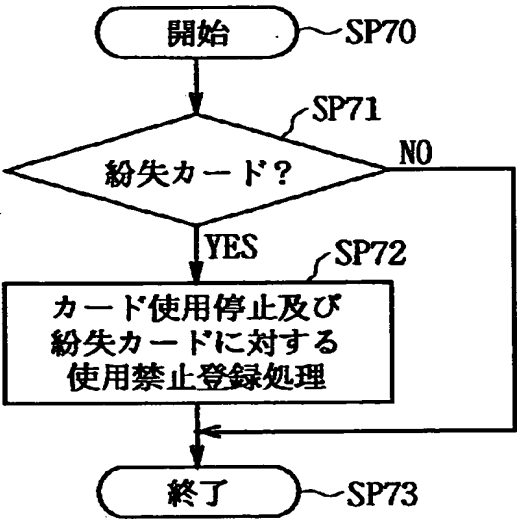


図 2 3    紛失カードに対する使用停止及び  
使用禁止登録処理手順

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

分割払いを利用する際に分割払い金額をユーザが支払う毎に任意に決定し得る電子マネーシステム及び電子マネー端末装置を提案する。

【解決手段】

消費金額分の金額データを情報カード 5 0 から引き出すことに代えて消費金額分の金額データを分割払い利用履歴データとして蓄積し、蓄積された分割払い残高の一部又は全部を分割支払い金として受け付け、分割払い残高から受け付けられた分割支払い金額を減算して新たな残高を決定することにより、ユーザは分割支払い金として分割支払い残高のうち任意の金額を分割支払い金として支払うことができる。

【選択図】 図 1 9



出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区北品川6丁目7番35号
氏 名	ソニー株式会社

**This Page Blank (uspto)**

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**

**This Page Blank (uspto)**